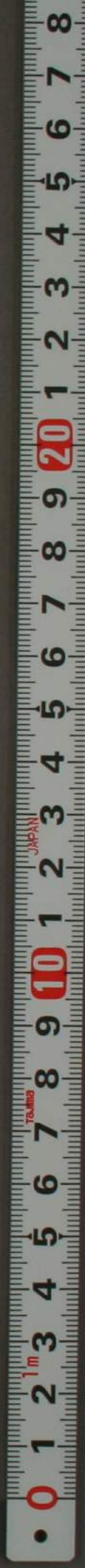


紀伊國名所圖會

三編

高野山 四之卷上

ル 4  
 325  
 14





紀伊國名所圖會三編卷之四

高野山之部上目錄

總圖 山内大門口 不動坂口

大臣家御登山  
將軍家御登山

大門口

慈尊院村

慈尊院

勝利寺

八町坂

團三郎碑

小都知峯

應其池

矢立茶屋 鏡字池 地藏堂

全圖 山内

登山七路

下乘標石

町率都婆

榊蔭石

天野神社

有王丸墓

二鳥居

地藏堂

赤坂

領地

雜事登

町率都婆供養碑

七社明神

兩壺山

傍の宿

子日權現社

古佐布村

笠木坂

袈裟掛石

臨幸

親王家御登山

下乘檄

中橋氏 四所 庄官

追分

西行堂

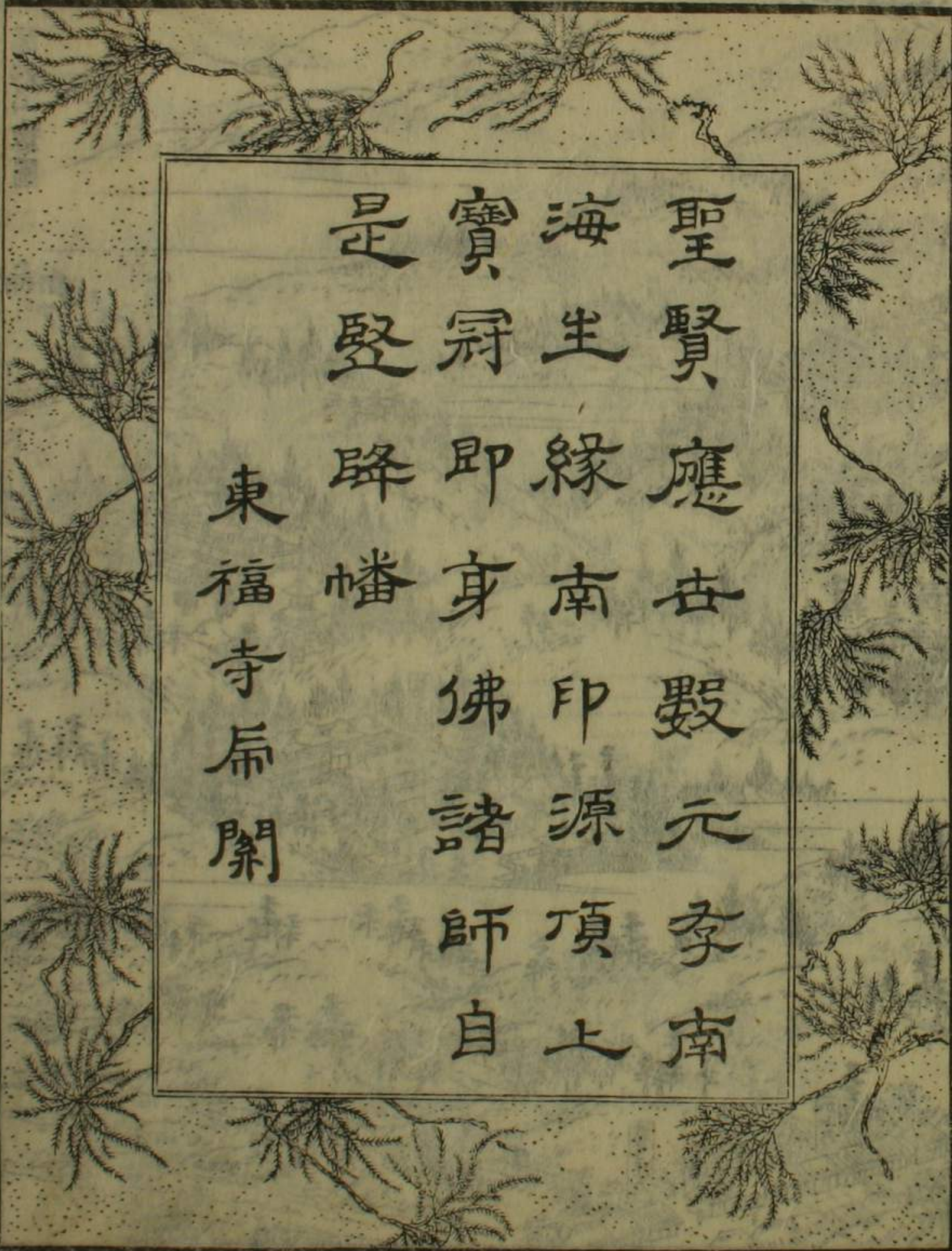
龜田大隅守碑

梵字岩

日光月光窟

捨石



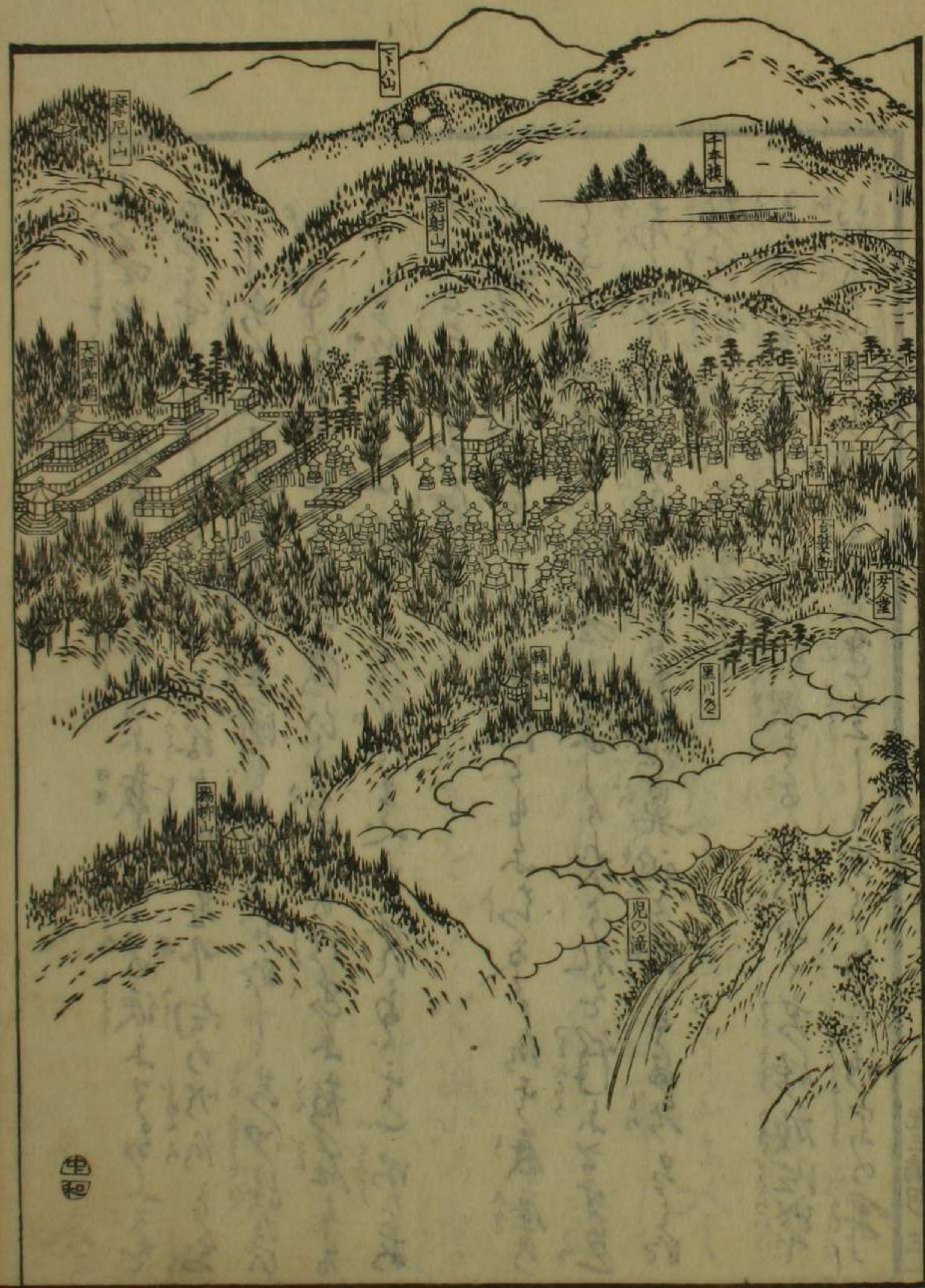


聖賢應去數元季南  
 海生緣南印源頂上  
 寶冠即身佛諸師自  
 是豎降幡  
 東福寺扁關

淚川 押上石 七色木 鏡石  
 椽渡 鳴子川 関屋 護摩壇  
 見越坂 化粧坂 雫の棚 笑松  
 下乘牌 女人堂 大門口總圖  
 不動坂 二軒茶屋 三軒茶屋 鎌不動  
 清水川 丁田天神社 學文路 梅天石 慈尊院道  
 生地氏齋 大師硯水 河根村 河根川 產物傘紙 千石橋  
 荊萱堂 櫻茶屋 神谷辻 率都婆木  
 作水 不動橋 外不動  
 四寸岩 児瀧 不動堂  
 岩不動 不動坂口總圖  
 山人部屋



高野山惣圖



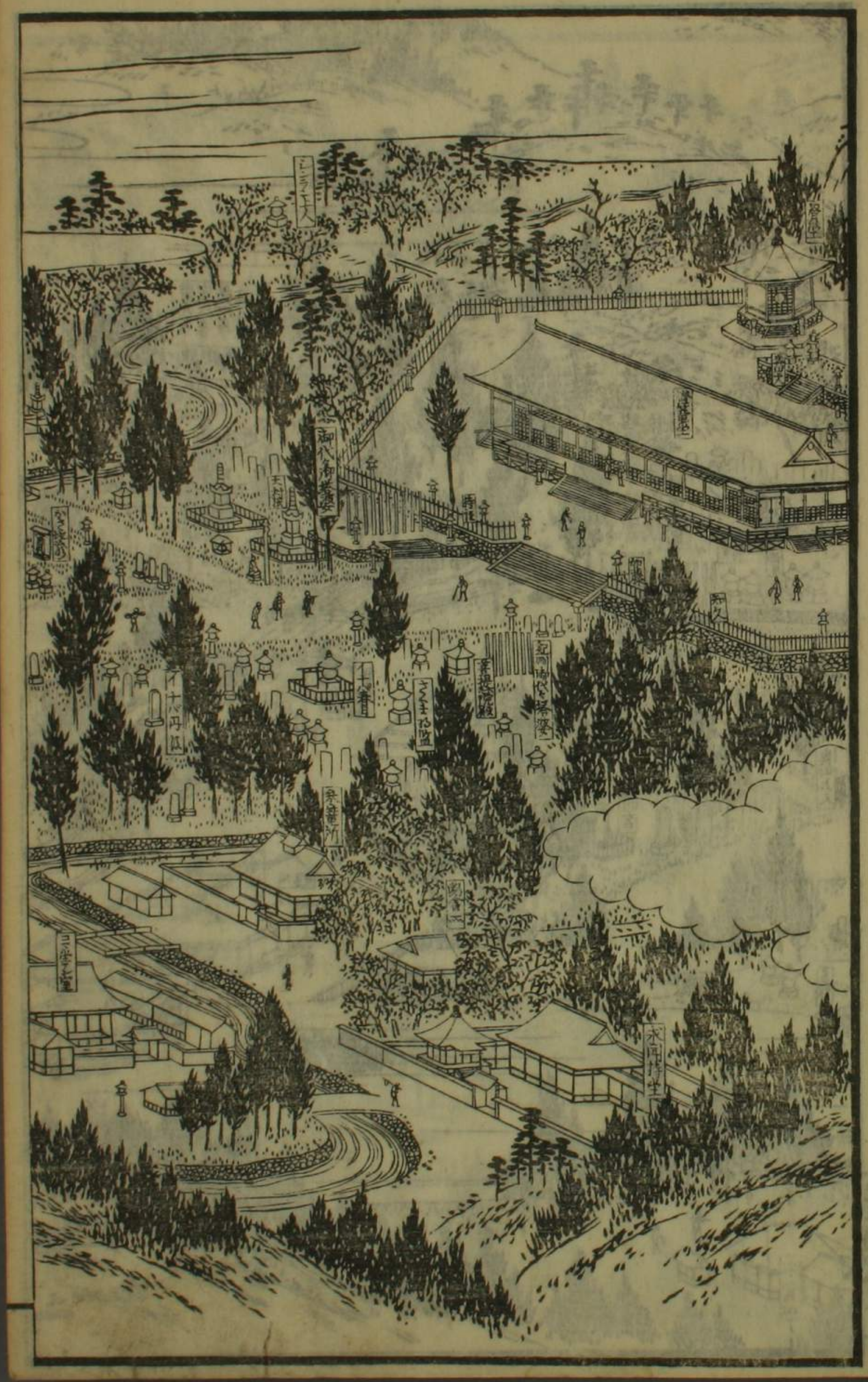
紀三編四ノ二

九例

一 此書地圖を全圖とせざる者自ら裁く如きの便よりあるを要とす地圖を如く修め大略全圖を下向の形とす  
 一 大向口を東部及び西の全圖を是よりお取し其四邊及び  
 一 故より未だ死を及ぶく如きの修むる散在する  
 一 予を修むより一層しより修むるに及ぶるを修むる  
 一 大向口の東部及び西の全圖を是よりお取し其四邊及び  
 一 予を修むより一層しより修むるに及ぶるを修むる  
 一 大向口の東部及び西の全圖を是よりお取し其四邊及び  
 一 予を修むより一層しより修むるに及ぶるを修むる

紀三編四三

一 此書地圖を全圖とせざる者自ら裁く如きの便よりあるを要とす地圖を如く修め大略全圖を下向の形とす  
 一 大向口を東部及び西の全圖を是よりお取し其四邊及び  
 一 故より未だ死を及ぶく如きの修むる散在する  
 一 予を修むより一層しより修むるに及ぶるを修むる  
 一 大向口の東部及び西の全圖を是よりお取し其四邊及び  
 一 予を修むより一層しより修むるに及ぶるを修むる  
 一 大向口の東部及び西の全圖を是よりお取し其四邊及び  
 一 予を修むより一層しより修むるに及ぶるを修むる

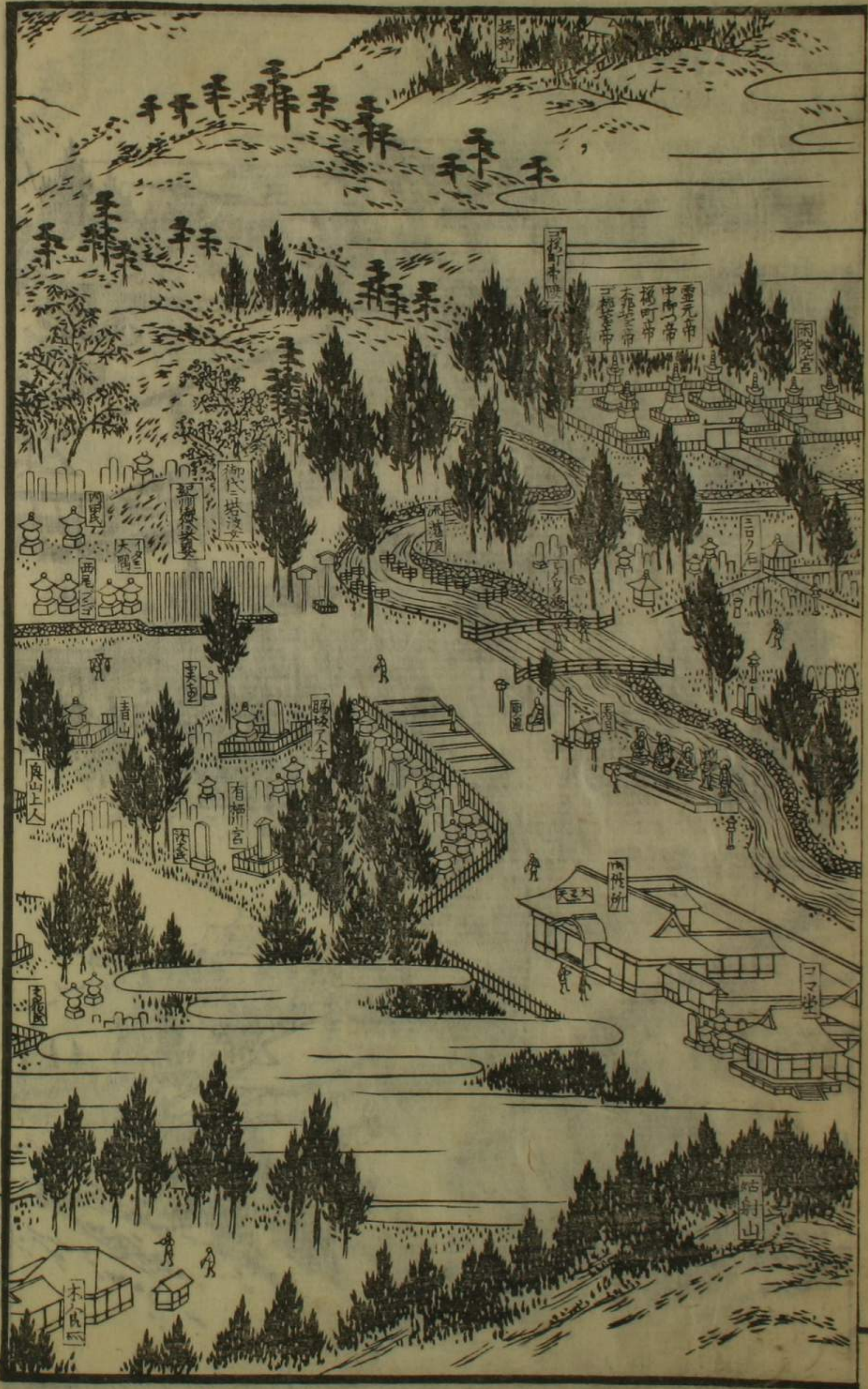
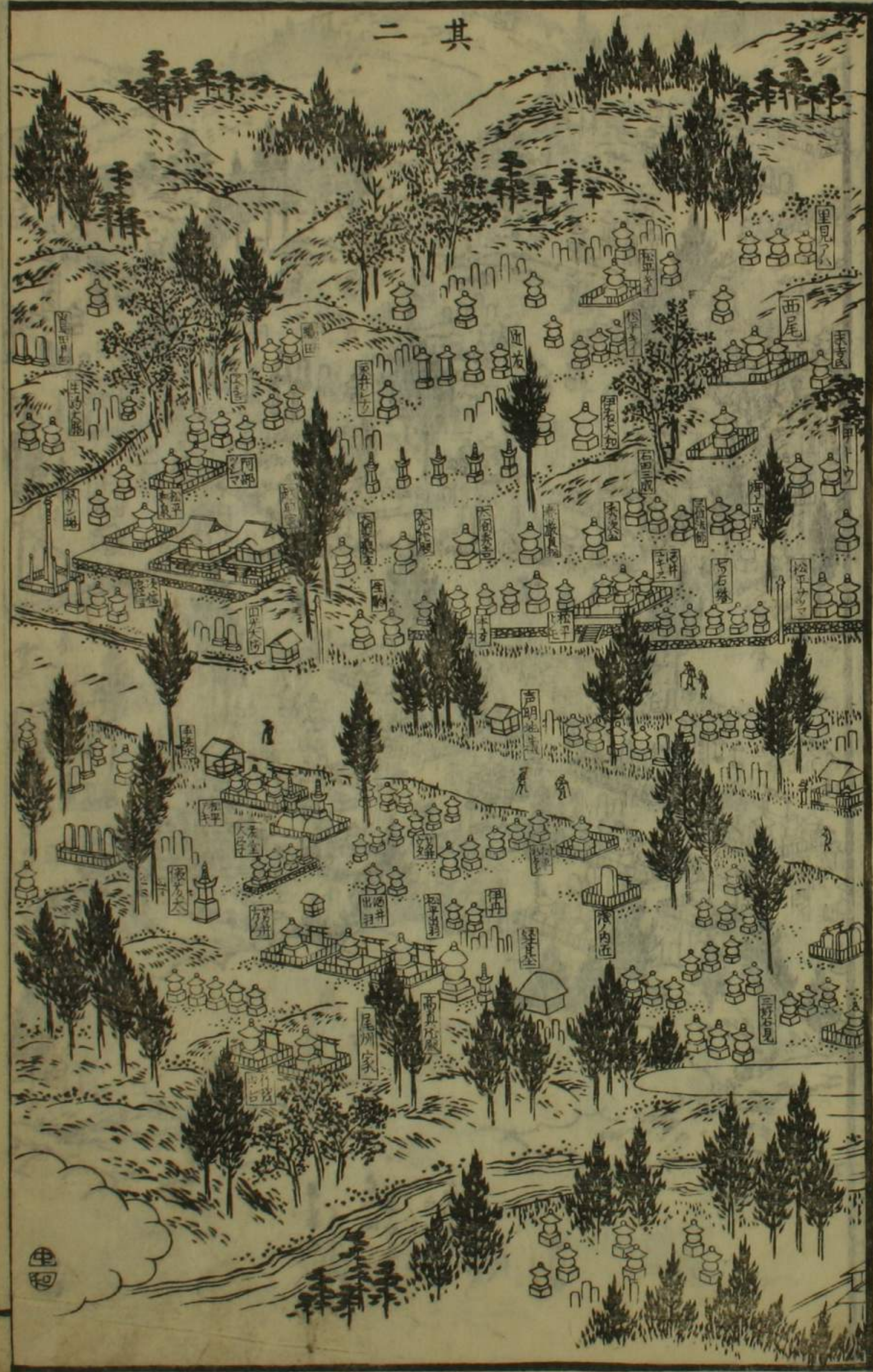


奥院おくのゐんより  
 大門だいもんち口まで  
 の圖ず

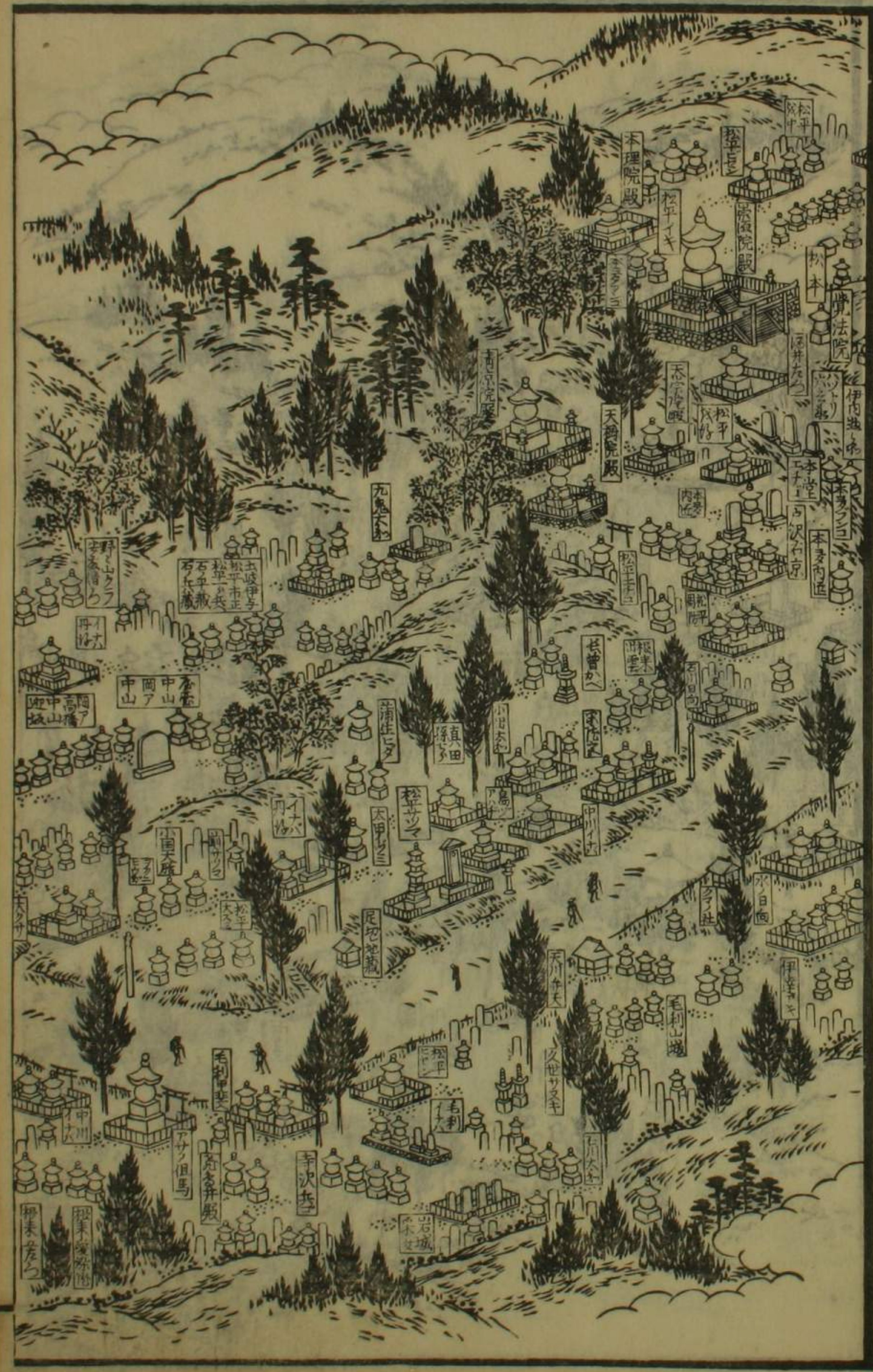
中

紀三輪の四

其二







其三

寄基祝  
 といふこと  
 老の法  
 高の法  
 土の法  
 大の法  
 五川合  
 法代





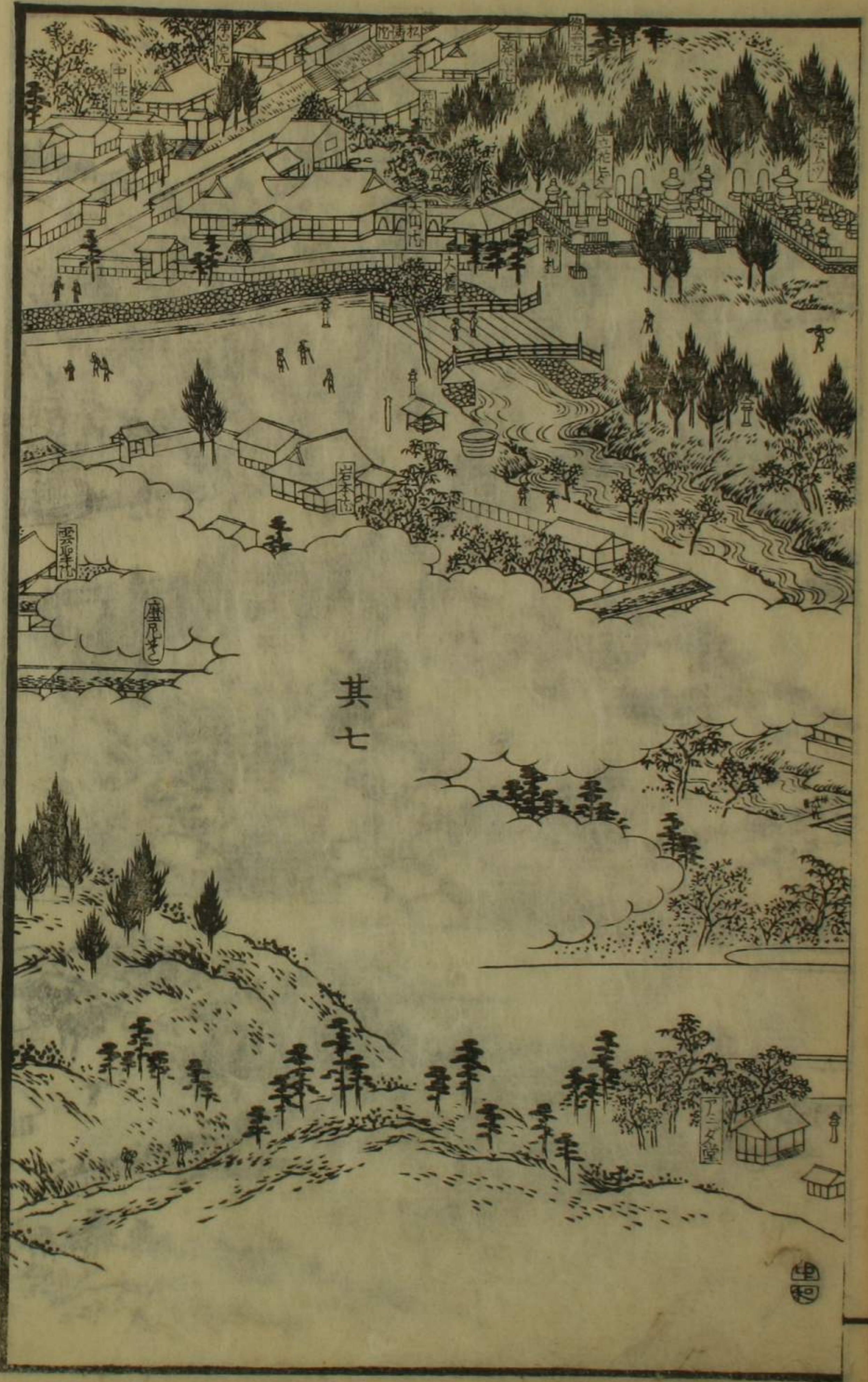
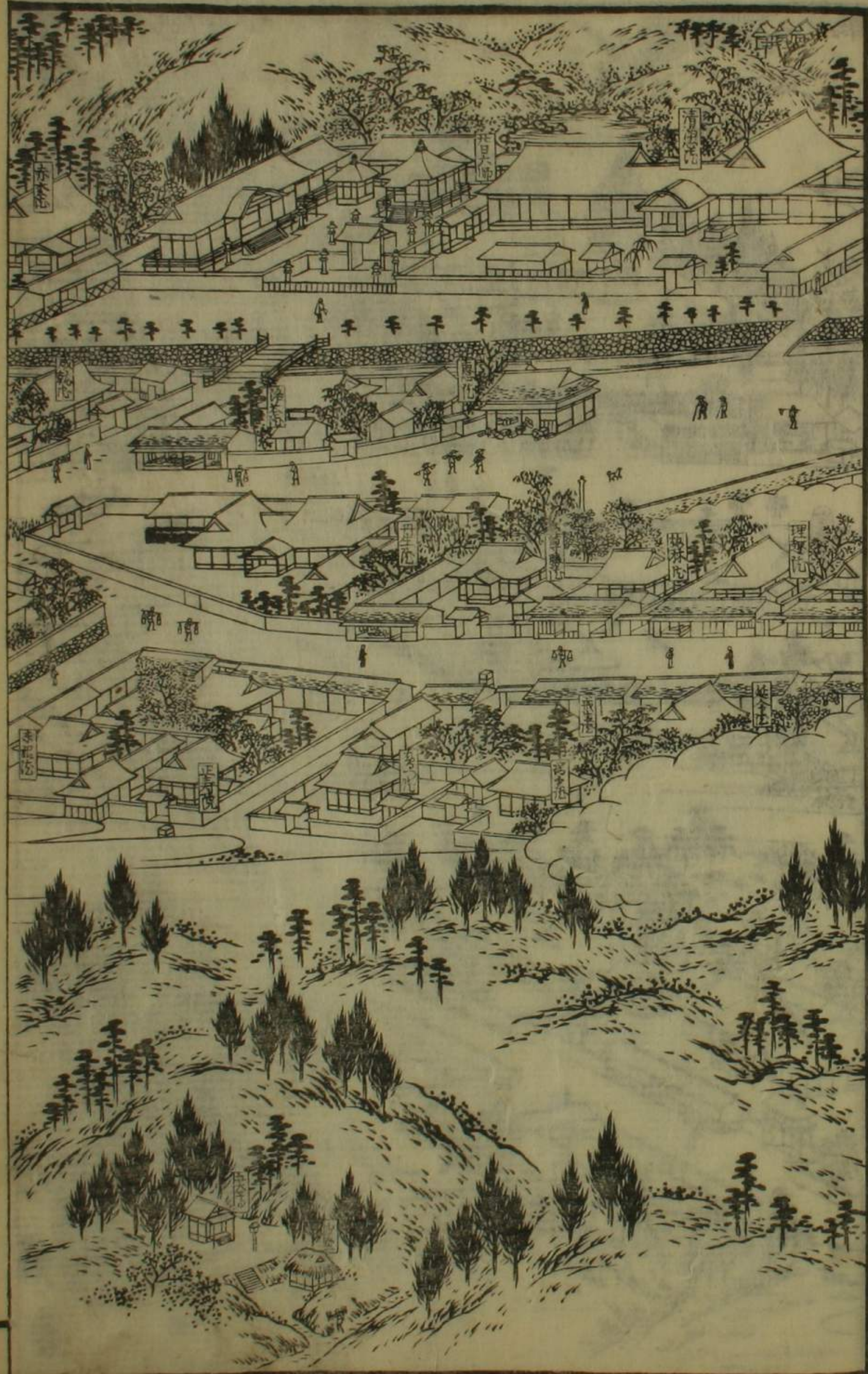
野木保彦  
同監物  
同監物



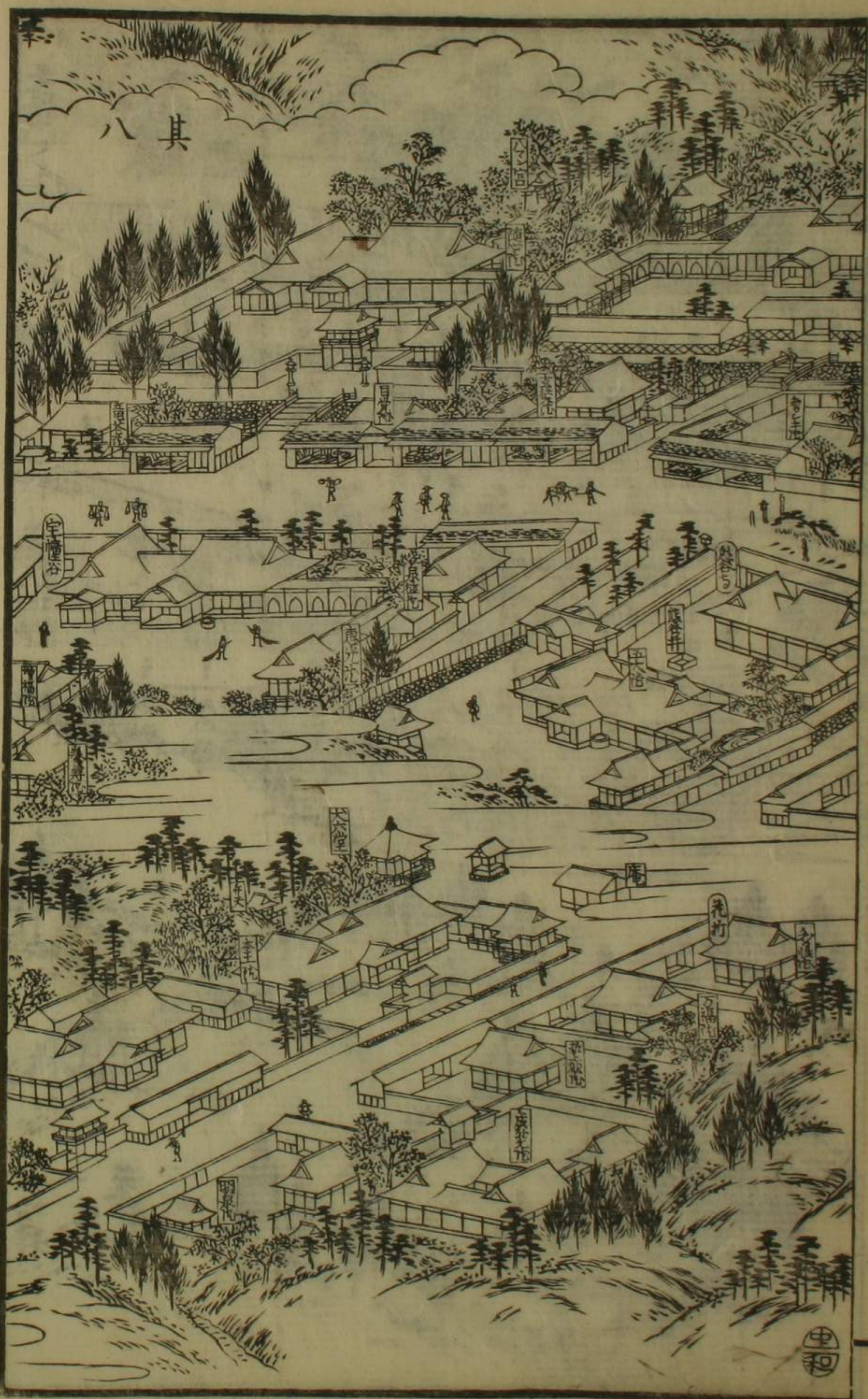
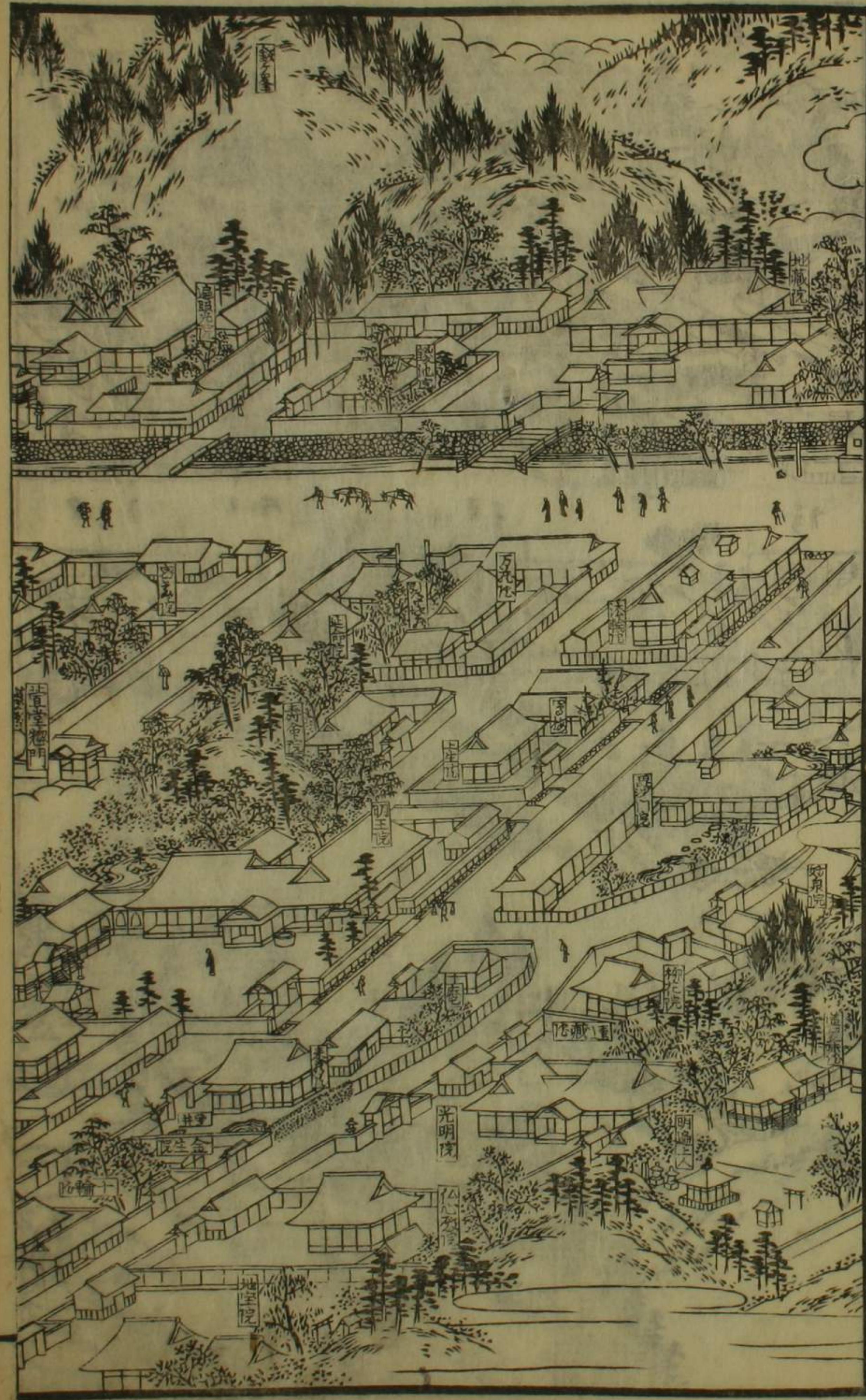
其五

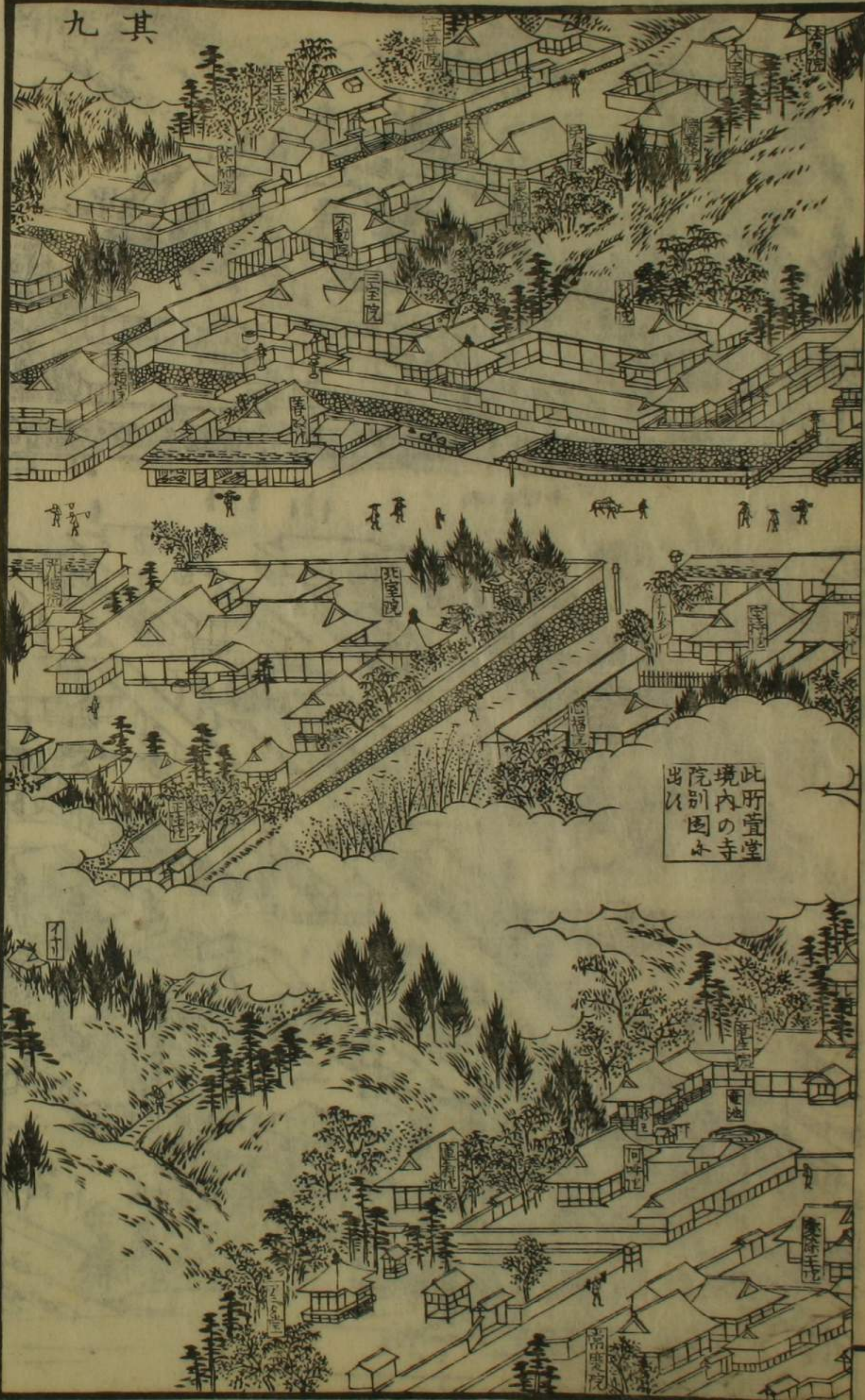
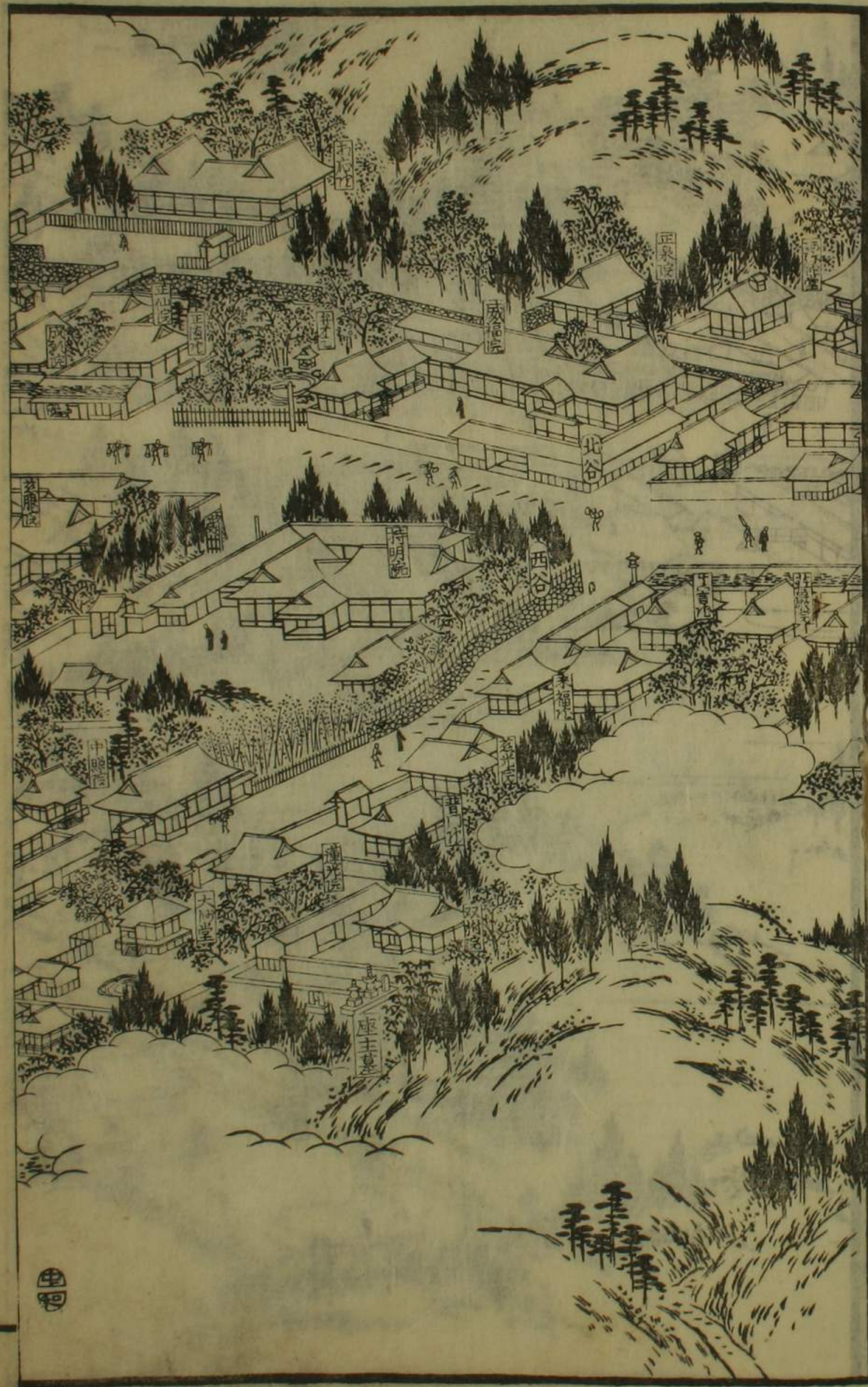
紀三編四八





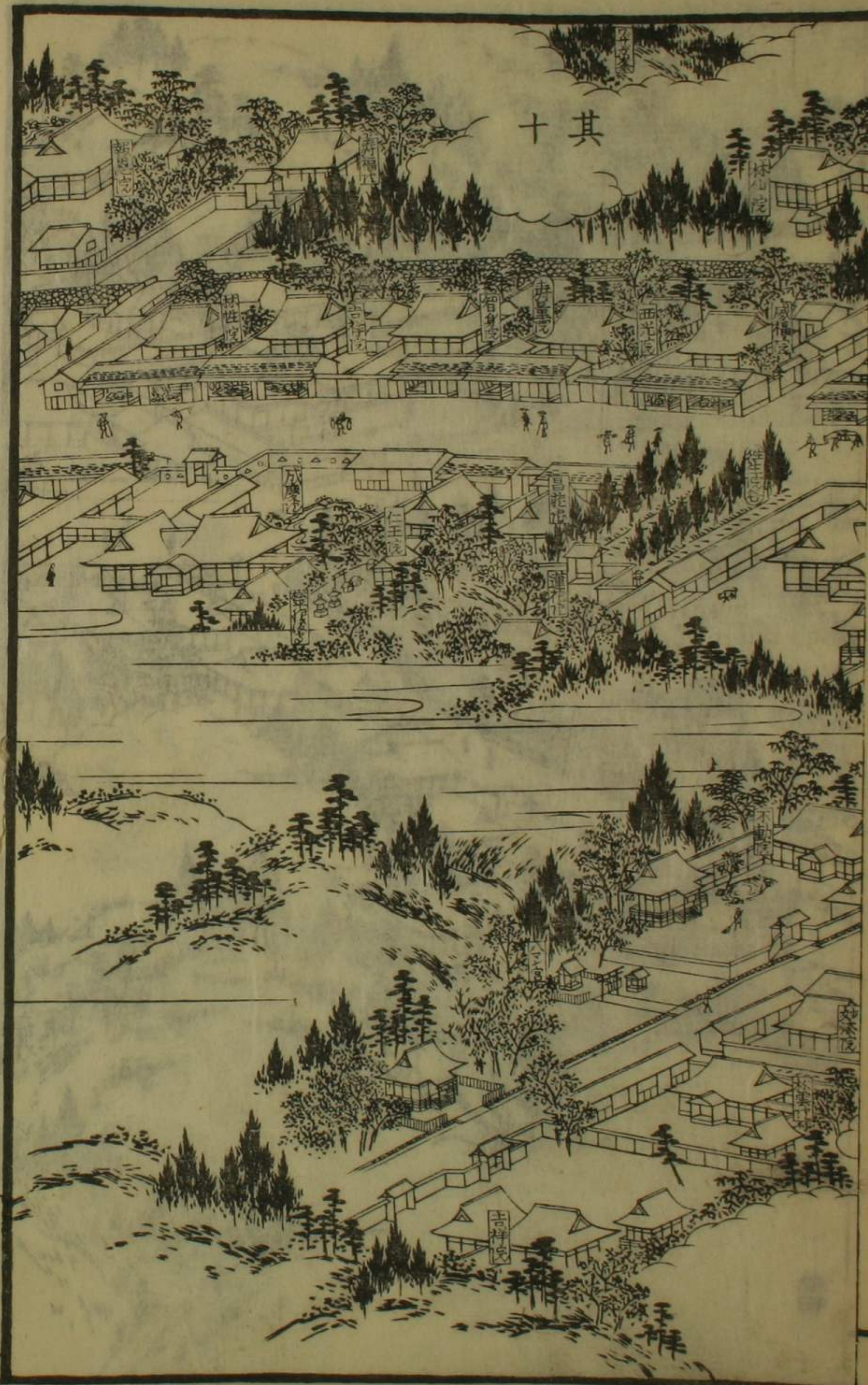
其七



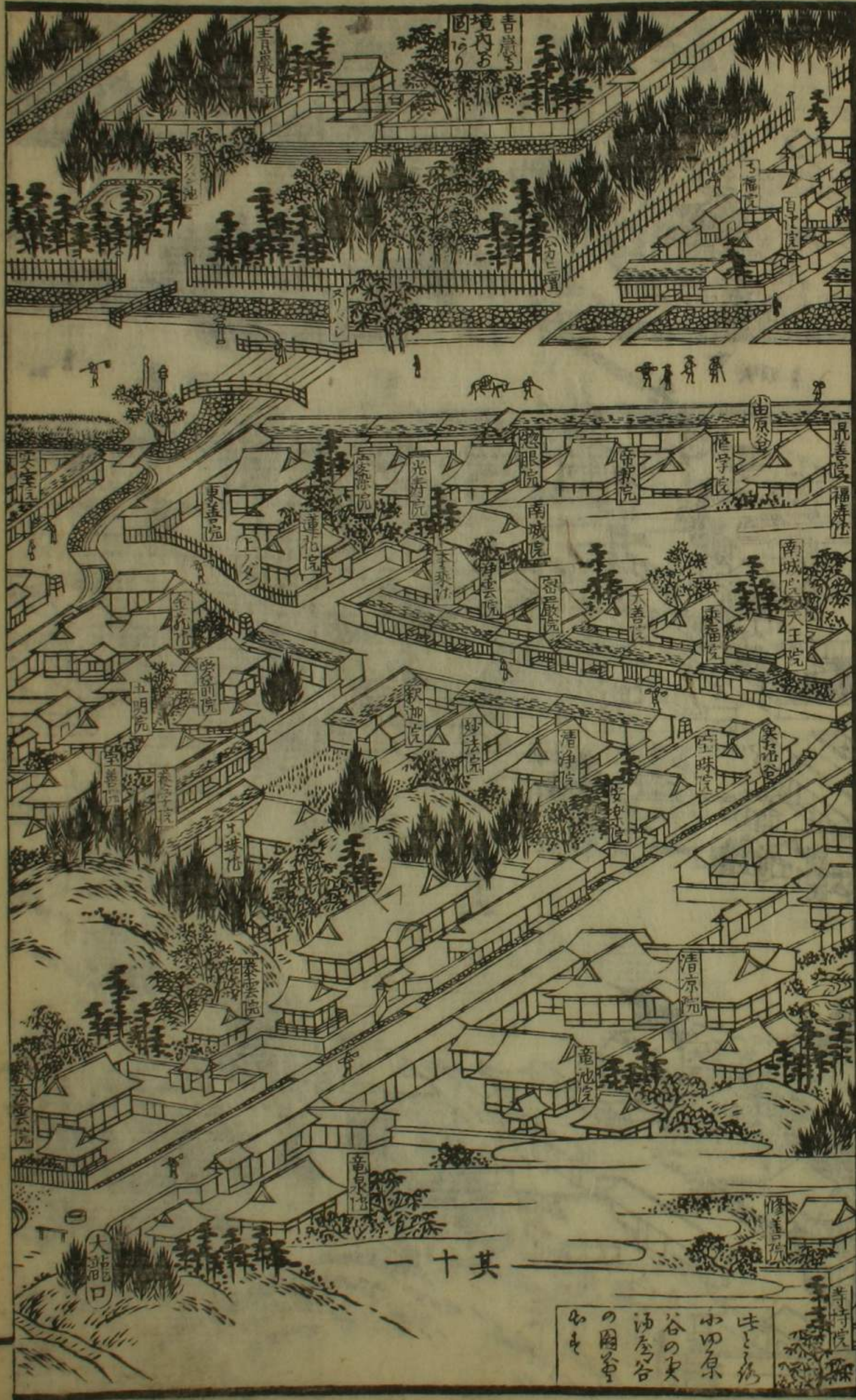


其九

此所堂  
院内の寺  
出以園よ

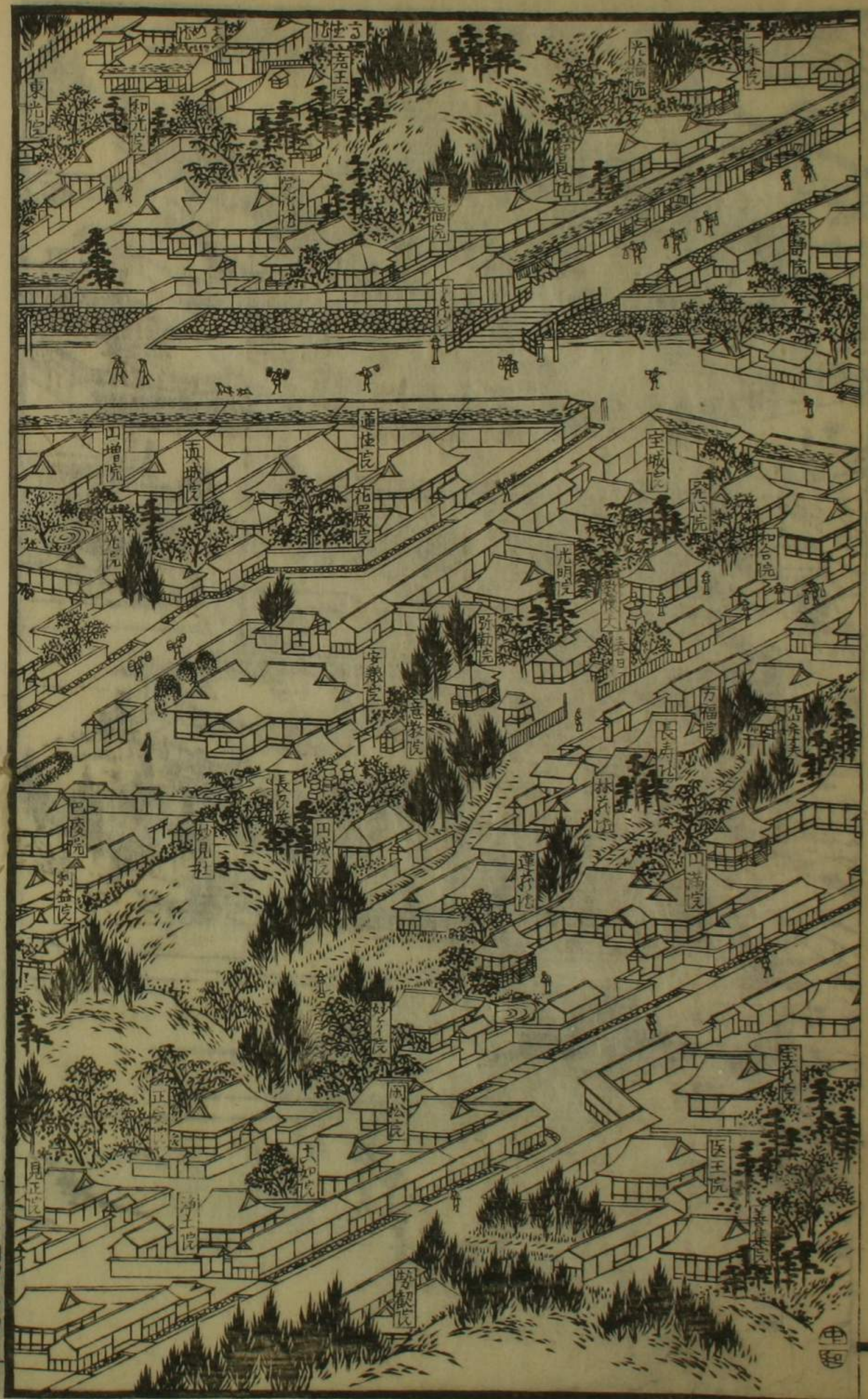




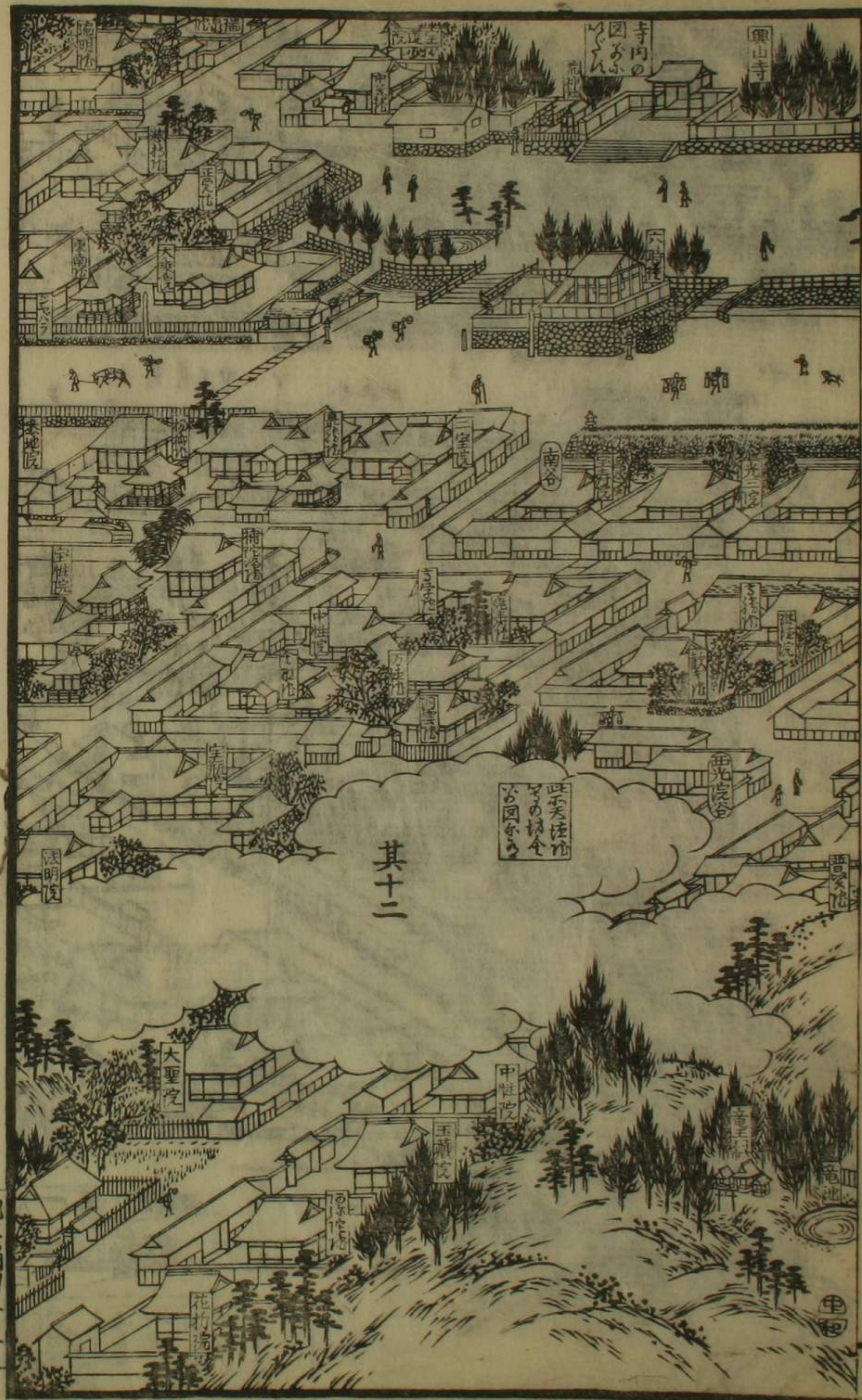
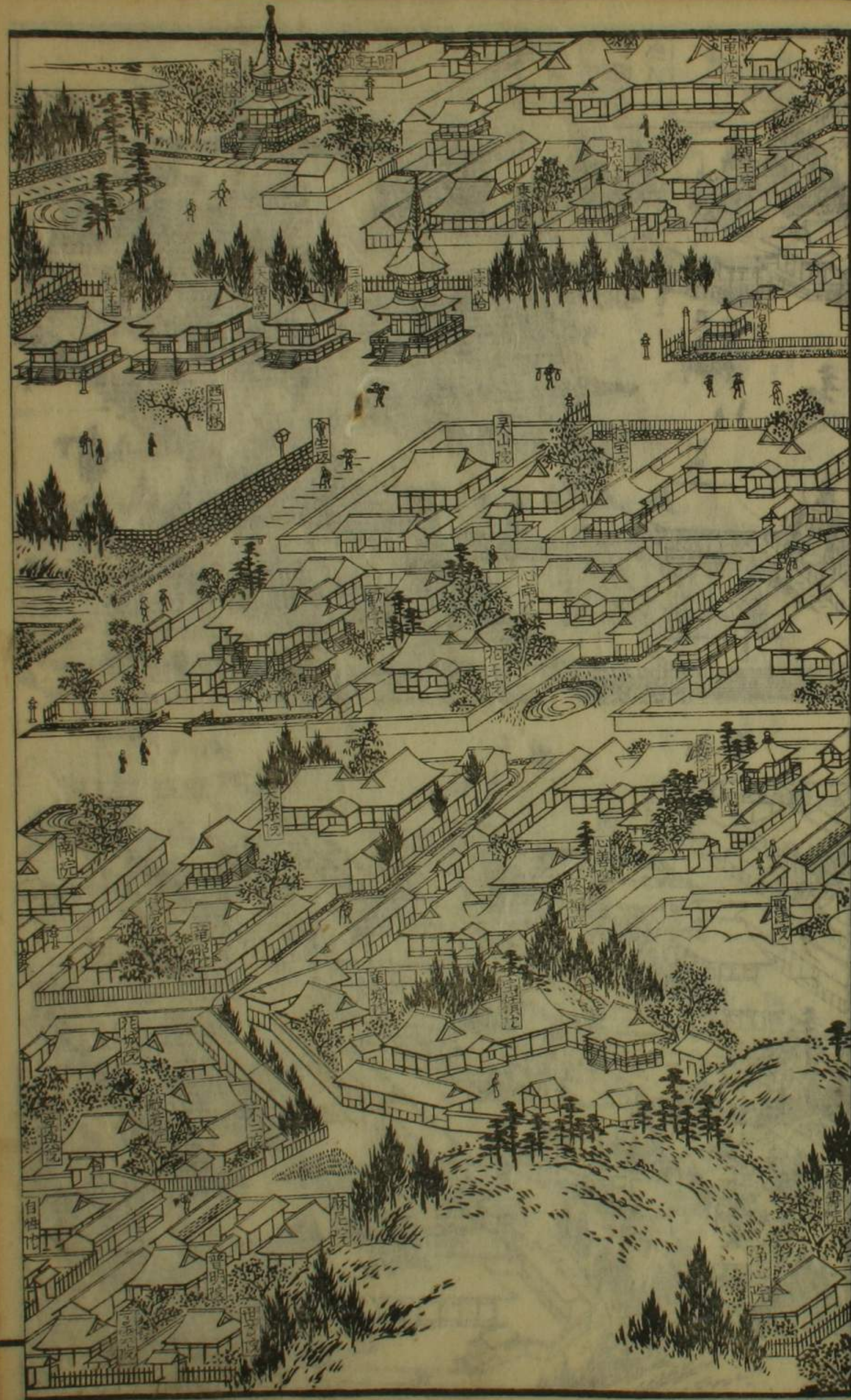


其十一

此の寺は  
小田原  
谷の東  
河原谷  
の園寺  
なり

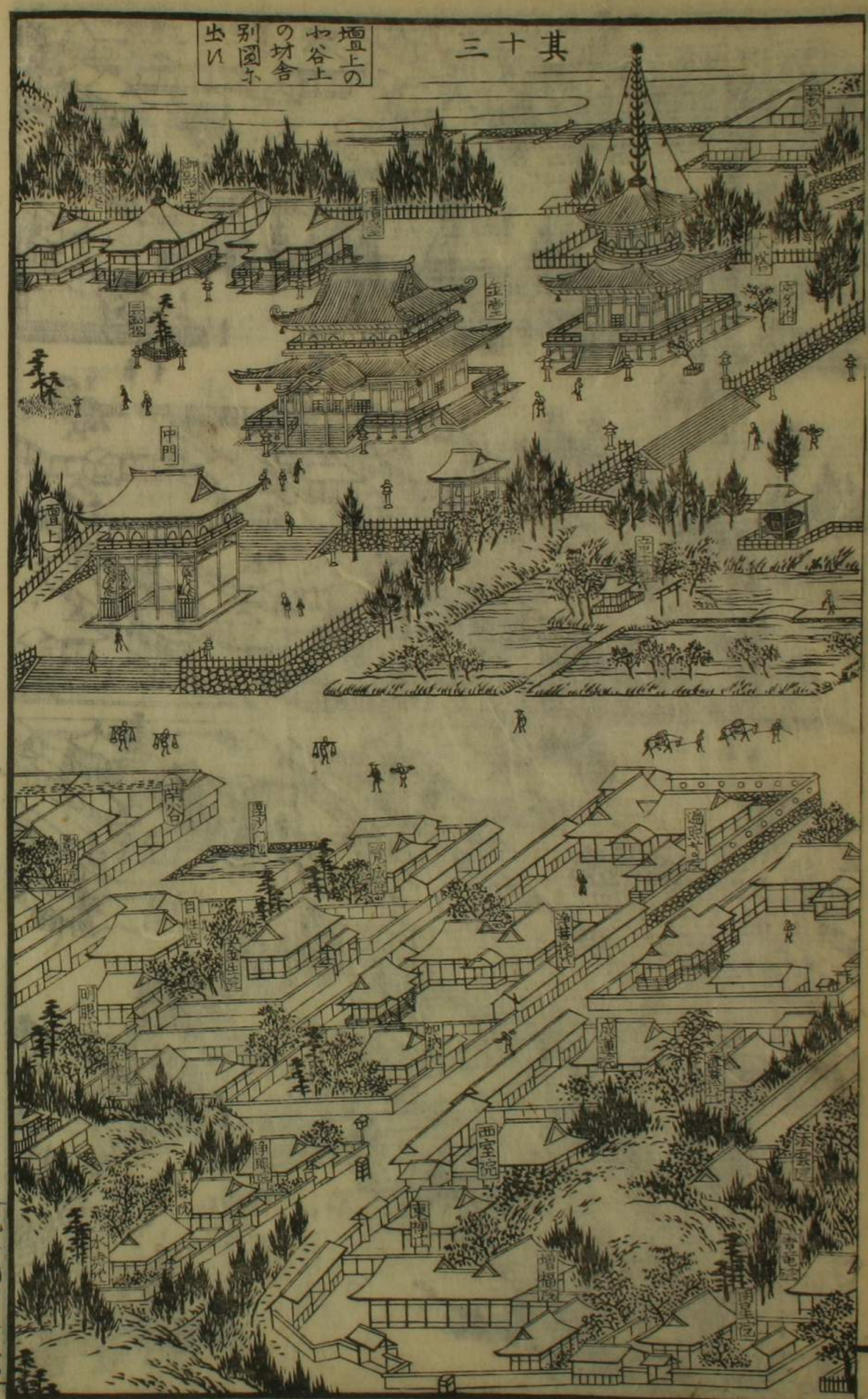
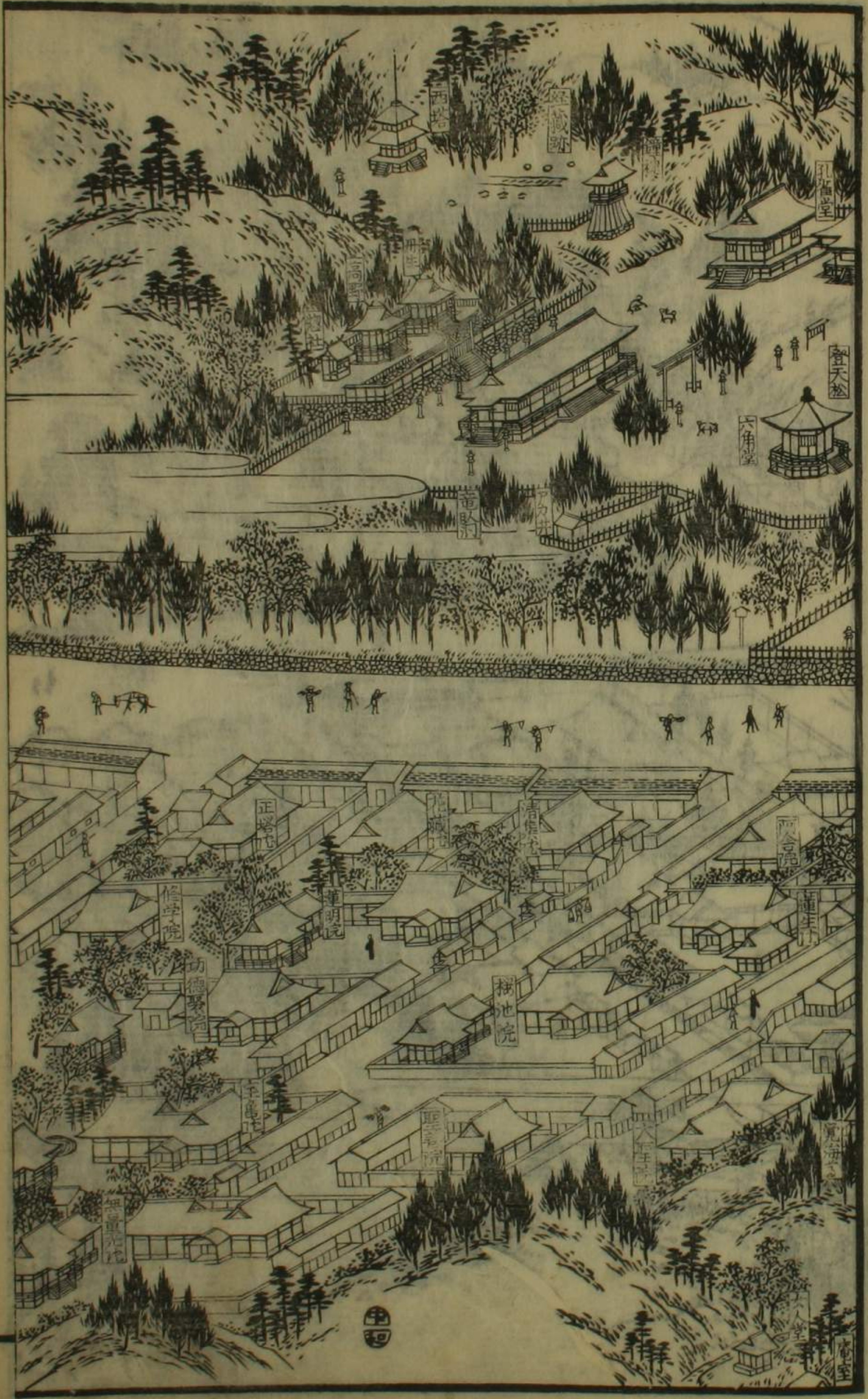


紀三編四十四



其十二

此天竺僧  
寺の塔全  
く同なる



挿上の  
 わ谷上  
 の切舎  
 別園を  
 出い

三十其

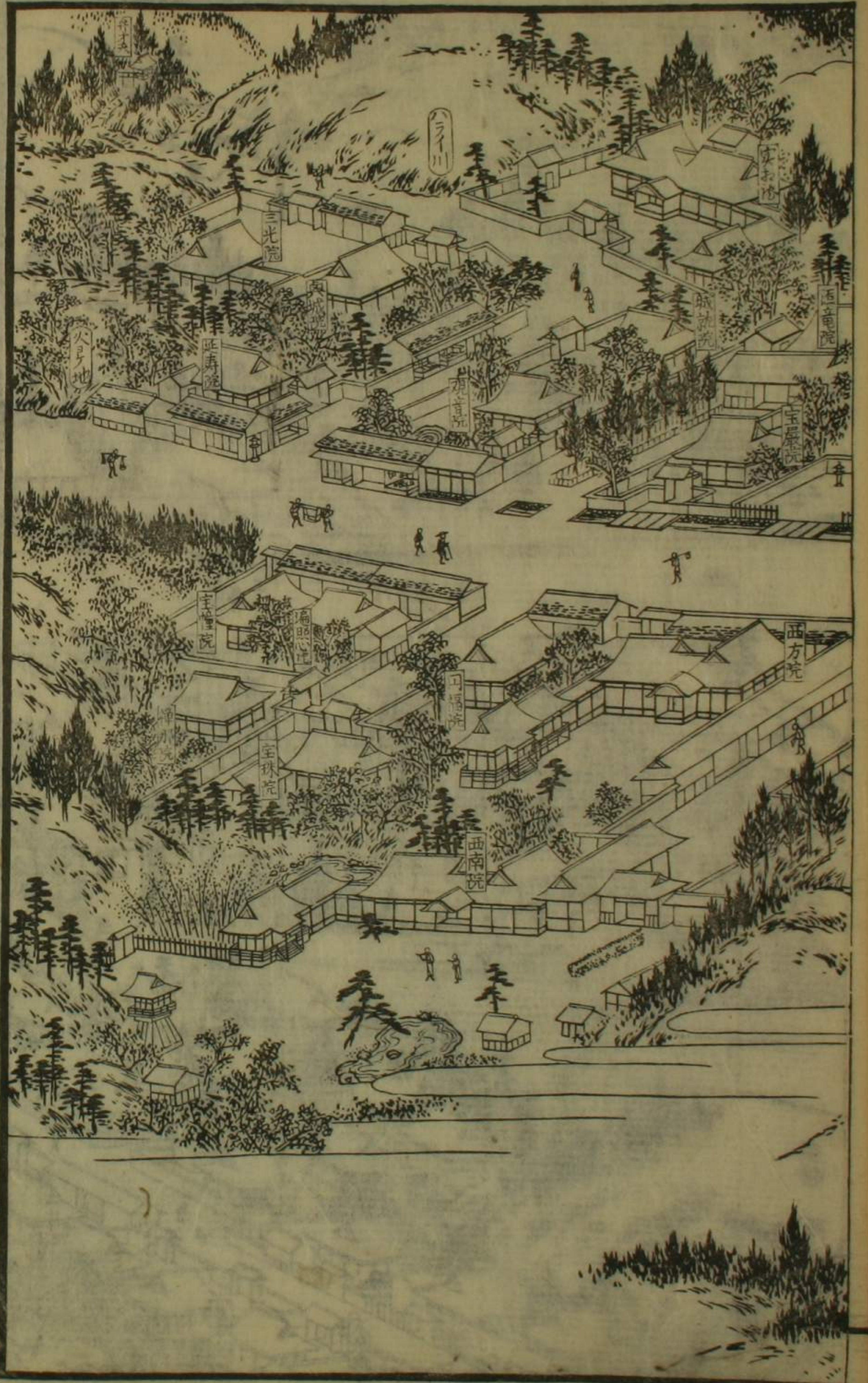


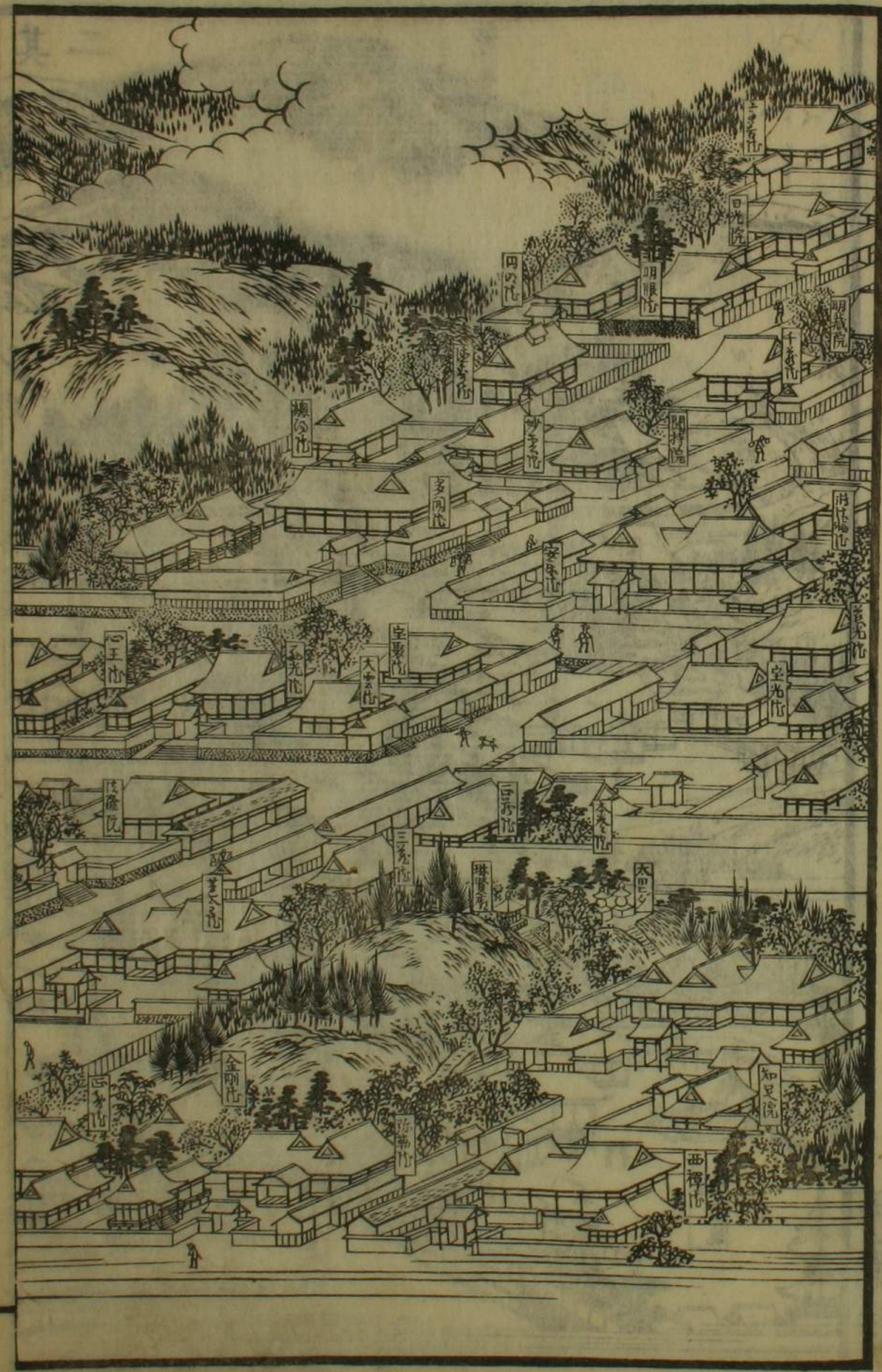
其十五



甲

紀三編四十八





谷上惣圖

谷上

興山寺  
御宮山

小塔峯

谷上の峯  
 結の林も  
 ころの名の  
 るのり  
 おくふ  
 るのり  
 東武  
 栗園





以下千手院谷五之室谷一心院谷惣圖

千手院谷

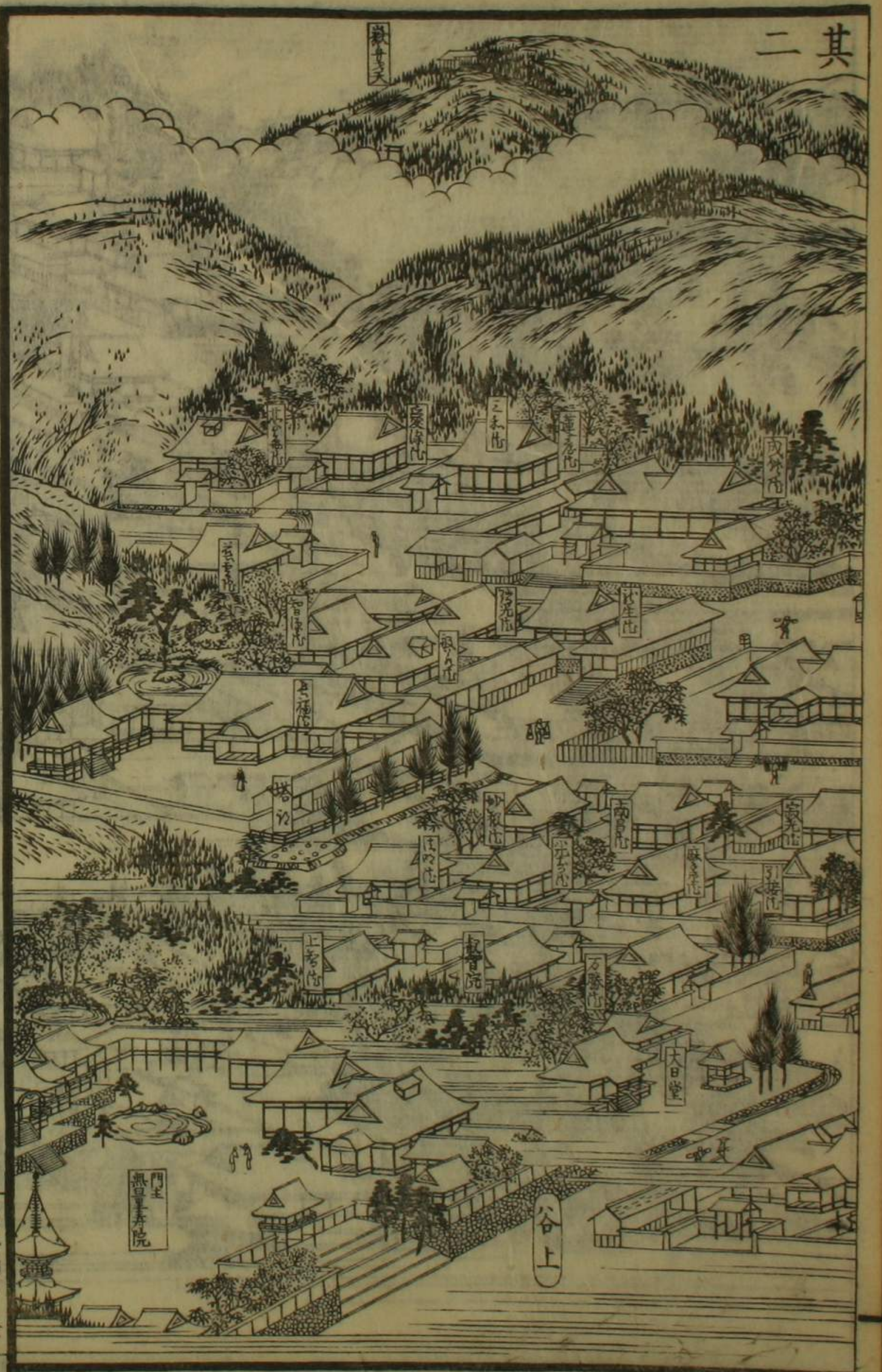
入万葉集云  
 中住持りりり  
 之室谷  
 つりりり  
 山ゆきみ  
 照り  
 わきまの  
 乃ちつりりり  
 寺のりりり  
 さつりり  
 ほゆりり  
 まりりり

つりりり  
 つりりり  
 むびりりり  
 つりりり

千手院谷  
 裏垢人

廣隆

其二



紀三編四ノ千

谷上

門主  
 無量壽院

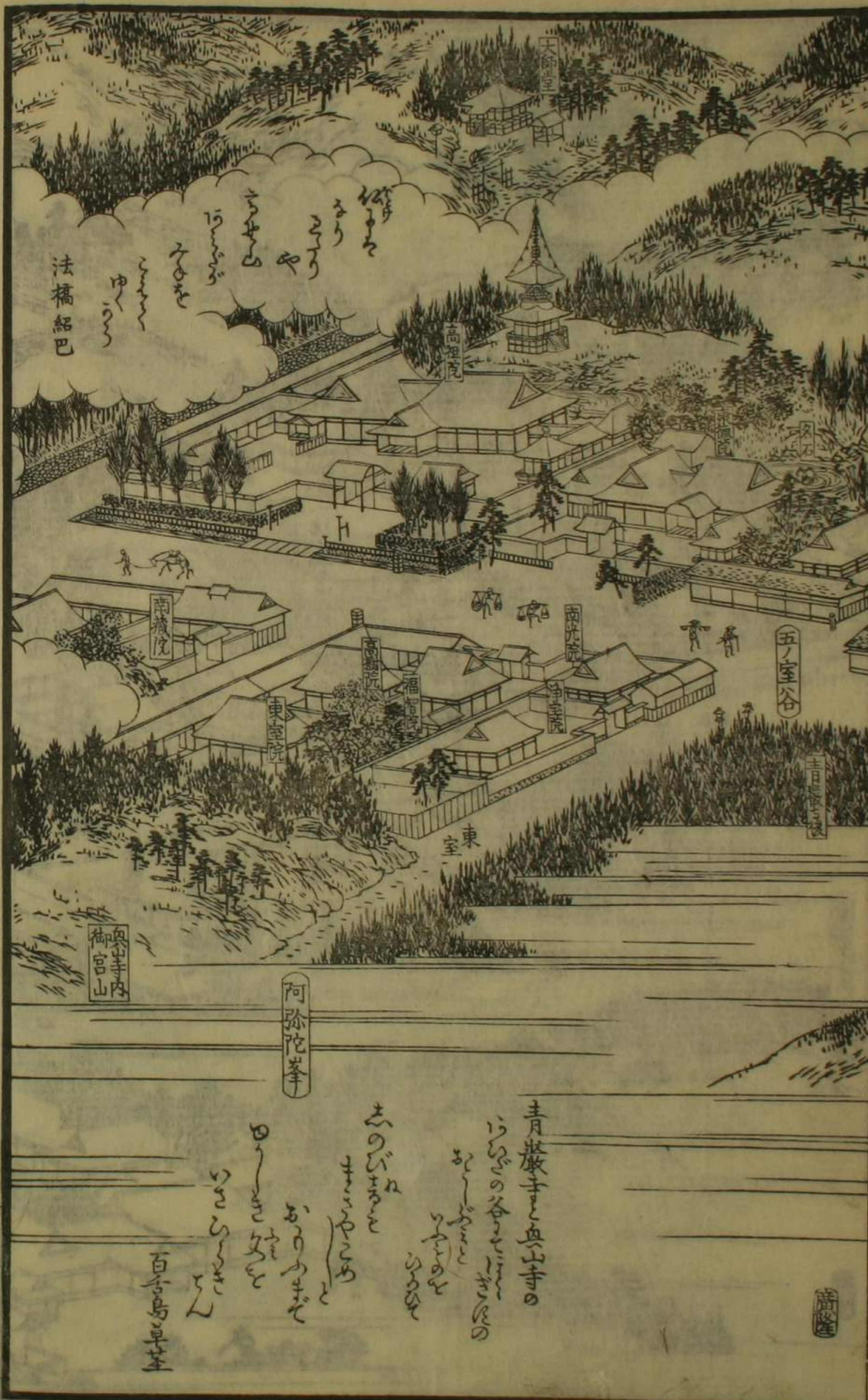








大徳院  
 の  
 別荘  
 あり



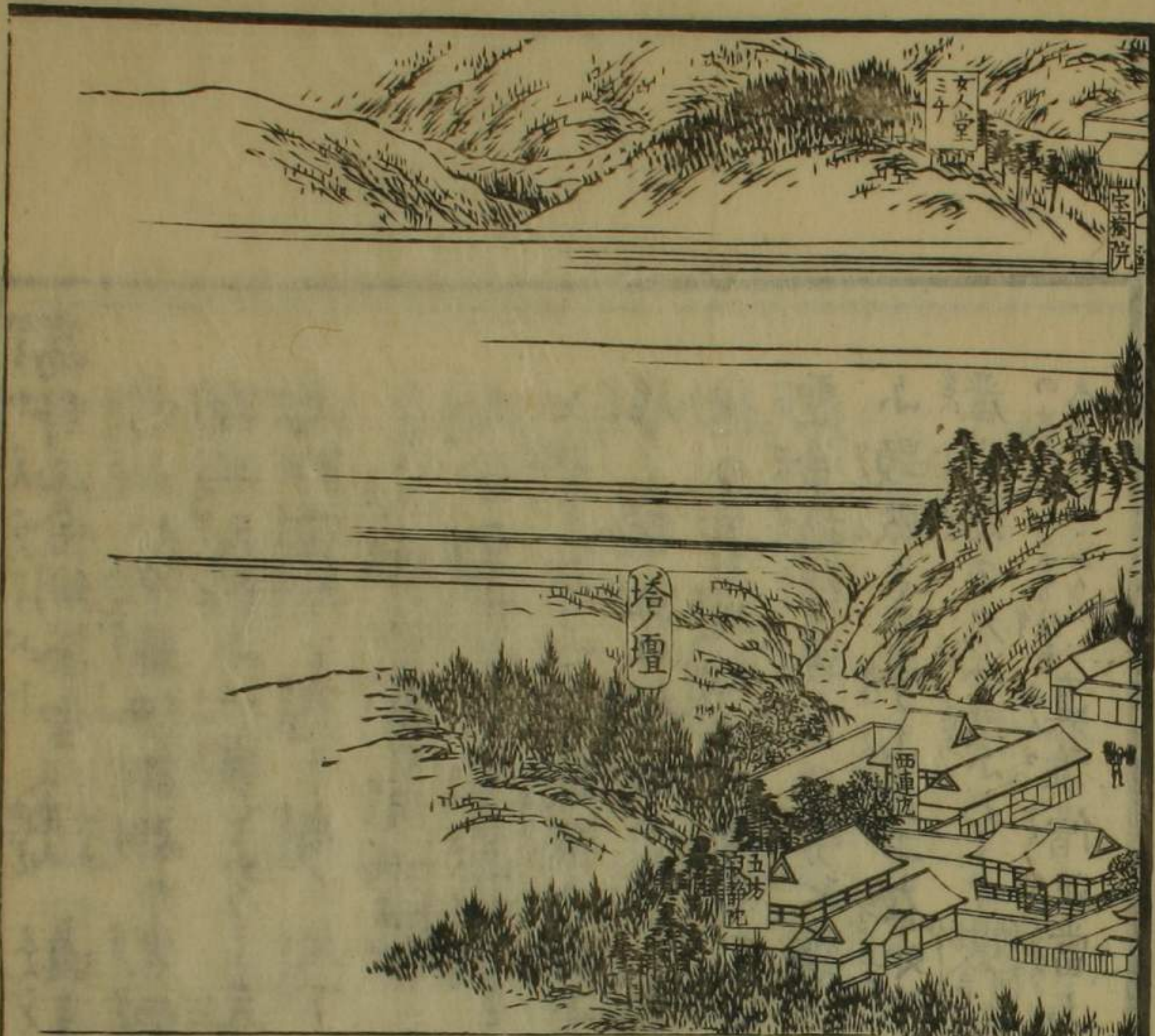
法橋紹巴

阿弥陀峯

奥山寺内  
御宮山

百舌鳥草堂

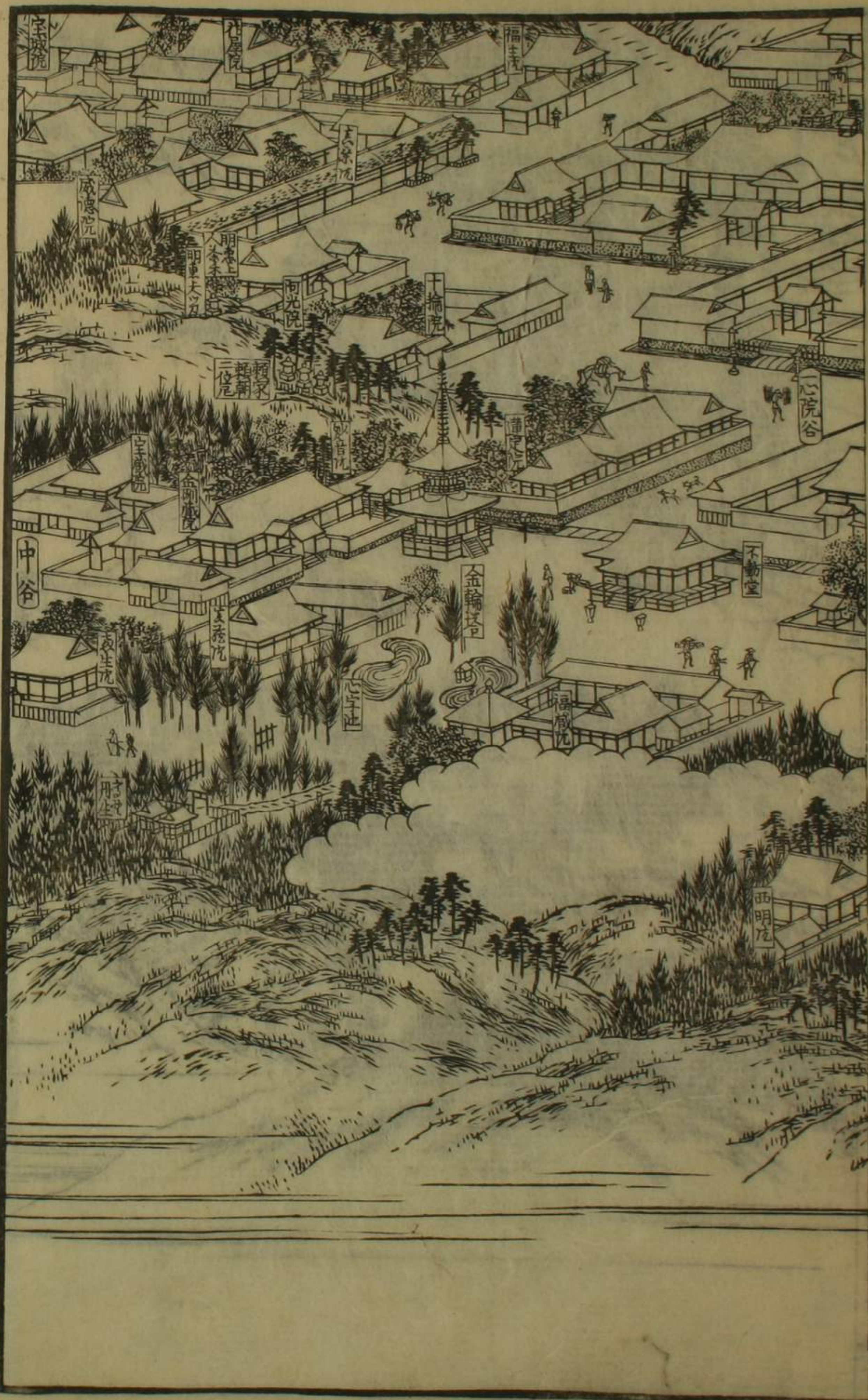
三月廿五日と奥山寺の  
 いらぬの各々...  
 おい...  
 ...  
 ...



あつちの  
 山を  
 登りて  
 都小幡  
 とこ心院の  
 坊を  
 別を

内大臣実隆公  
 永享四年四月  
 登山して  
 都小幡を  
 とこ心院の  
 坊を  
 別を

廣隆



三十一日

高野山金剛峯寺

又南山

真言宗古義本山

當山ハ本國伊都郡の東南ハ時チ第鬱トシテ杉槨八面を  
圍半天別ハ一畝トナリ天下無雙の名區ナリ往昔開祖  
大師靈境ト覓ク周ク天下ト廻リ給ヒ去の地ト志ク所ナリ  
トモ入唐帰朝の後御年四十三歳 帝許ト蒙リ修禪入定の地ト志  
給ヘテ靈場ナリ其高野山トシテハ高山の頂上ハ平原曠野  
ト以テなるベシ創闢の時ハ當リテ二神の出現ハ双大の前  
導リ飛鉦の松楠ハ樹ト寶劍の地ト跡トシテ杯皆大師行  
徳の至る処凡俗の得ル思儀スズキフルラハ其後世の  
聖帝攝祿運歩の勞ト厭ヒ給ヒテ登嶺在ハ半載ト記籍  
ハ顕然ナリ今山上ハ在如の坊舎惣トシテ一千計ナリテ結構奇  
巖言語の及ぶ所ハあり 坊舎屋上悉檜皮トシテ昔ハ古瓦トモ葺キ  
の法ハむろも法トモ 眞雅僧正當山圖記ハ往途廻トシテ躋スル

三十里山嶽疊々トシテ屏トシテ千万御周匝シテ連峯ハ法身の  
花臺ト表シ正平ナル幽原ハ化佛の淨土ト類シ惡獸毒虫ト斯  
ハ趣もど曾テ害心ナク煩惱即菩提の理觀テ深谷高  
峰も徑を經スハ亦嶮難ナク生死即寂靜の道察シテ  
終ハ影ト指者ハ往因ト悟ズシテ止ル者ハ前業ト恨ミ  
バ云々又東山信禪師の曰日域の佛土ハ定ク是南山あり  
近ク大師の入定遠ク則古佛の靈跡我彼峯ハ登リテ夢ハ  
十方の佛菩薩集會ト或ハ無相の理ト説ク或ハ法佛の  
法ト説給ヒテ見ル云是等の文ト見て當山の靈場地類ナク  
を知ら

性理集卷之七上表

今准禪經說深山平地无宜修禪空海少羊日好涉覽山  
水從吉野南行一日更向西去兩日程有平原幽地名曰  
高野計當紀伊國伊都郡南四面高嶺人蹤絶踐今思上

奉為國家下為諸脩行者艾夷荒敷聊建立脩禪一院經  
中有誠山河地水悉是國主之有也若比丘受用他不許  
物即犯盜罪者加以法之興廢悉繫天心若大若小不敢  
自由望請蒙賜彼空地早遂小願然則四時勤念以答兩  
露之施若天恩允許請宣付所司輕塵宸宸伏深悚越沙  
門空海誠惶誠恐謹言

○領地

其廣狹屢沿革今領地紀川の南數十庄合せて二万石余之  
領地其廣狹屢沿革今領地紀川の南數十庄合せて二万石余之

大師語記云

弘仁七年 嵯峨帝賜官符曰空地一處在伊都郡以南  
深山中曰高野四至四方高山東限丹生川上峯南限當  
川南長峯西限應神山北限紀伊川南峯云々  
清和天皇貞觀十八年秋七月廿二日丁酉金剛峰寺水  
陸田三十八町在紀伊國伊都郡賀名草牟婁四郡救免

其租水為寺田

金剛峯寺料五千六百十六束同寺燈分元佛聖料二千  
八百束

同

允金剛峯寺九月廿四日修功德料米十斛油一斛以紀

伊國正稅辨備國司檢校前會十日運送寺家

○臨幸

宇多法皇 昌泰三年 白河上皇 寬治二年同五年大鳥羽上皇

長治元年大治二年 後宇多法皇 正和後醍醐天皇 延元

○親王家御登山

大御室性信法親王 康平二年 覺行法親王 永長 覺法法親王  
大治二年 聖惠法親王 大治二年 覺性法親王 仁平 守覺法親王 安  
三年 道法法親王 壽永二年 道助法親王 建永 道性法親王 同上

法皇高野山詣



甲



高祖大師の御  
 身成佛志願  
 あまの御心  
 十量ありて  
 十方世界にわたる  
 無量の衆生  
 を濟度し  
 りんごの池  
 伝ゆらん  
 高野山へ  
 来訪して  
 値遇の因縁と  
 法皇の御心  
 高野山に  
 法皇の御心  
 高野山に  
 法皇の御心  
 高野山に

○大臣家御登山

道深法親王三兼久護良親王元弘中静覺法親王應仁任助  
 法親王元龜二年尊性法親王寛永六年覺深法親王元和四年寬深法  
 親王天明四年  
 御堂關白道長公治安三年宇治關白頼通公永兼京極師實  
 公永保元年兼徳内大臣師通公嘉兼宇治入道忠實公  
 天養元二年以上大臣頼長公久安四年平相國清盛公久安五年松殿禪定  
 基房公貞應元年大宮太政大臣公經公貞應元年光明峯寺  
 道家公建長二年高園院關白師忠公乾元年道遙院内大臣實  
 隆公永正二年近衛龍山公文祿三年  
 將軍家御登山  
 足利尊氏公觀應二年同義詮公延文同義滿公明徳應永同  
 義持公應永同義教公永享同豐臣秀吉公文祿三年

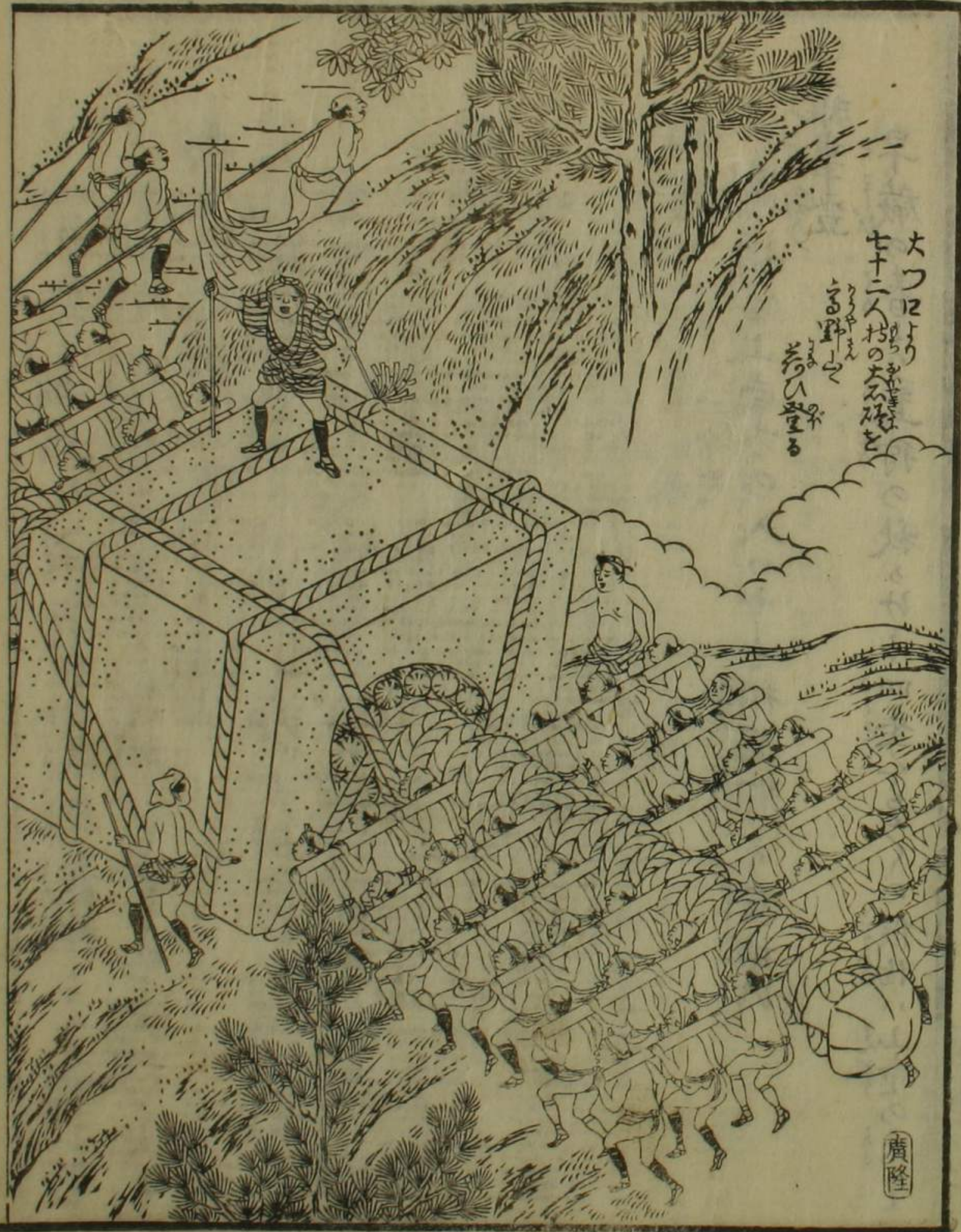
東照神君同三

自餘月卿雲客諸宗の高僧碩徳登山の遺跡ホ少うらむと  
 りんやと畧之

○登山七路

大門口

七路上の女人の入り堂堂より  
 又西口又の夫立口麻生津若山若山口  
 此道當山西方の入口なり慈尊院の廟と拜し坤小向ひ  
 て攀躋るもと忝も帝王の臨幸し給へる道ふして山  
 路迂廻なとも嶮あらば文永年間の町石今猶依然と  
 して町毎ふ存と故ふ町石道とて府下より登るもの  
 麻生津峠より志賀郷と經て矢立と此道と合し大門  
 ふ入る故ふ若山若山口の名もあり  
 不動坂又京口又一心院谷小田京谷あて  
 此道當山正北の入口ふして京大坂より紀伊見峠と越て



大つにより  
七十二人の大石を  
運ぶ

来るものと大和路より待乳峠を越てあるものと清水村  
二軒茶屋あて合ひ学文路と経てよの道より登詣り  
もの十ふ八九なり  
以上二路へ下條ふ詳し  
大龍口又熊野口と云ふ  
此道當山東南の入口より熊野本宮詣り夫より絶嶮の  
深山幽谷と経て凡十五里ありて高野小至り  
○八鬼尾谷本宮より五十町 ○七色茶屋八鬼尾谷より四十町  
○八町茶屋  
○石楠辺八町 ○矢倉百町 ○三浦峠五十丁 ○寒野川七十  
○松平十八町 ○上西六十町 ○かやぶや七十町 ○大又八十町 ○水ヶ峯  
七十二町 ○大瀧五十町 ○高野山五十町  
龍神又湯川口と云ふ保田口あり大門の左ふ通に龍神より十三里余



此道當山坤方の入口ふして日高郡龍神より来る也  
有田郡山保田より来る也新村と合して大門に入る  
大峰口谷と通じ大峯より九十五里野河口とも又蓮花

此道當山東方の入口して大峯山上より泥川ふ下り  
天の川を経て天狗木より入る俗此道筋を七度半道

とて一度此道より登指をれば功徳七度半ふつるを  
黒河口或は大和口とも千手院谷ふあり女人堂より黒河村まで  
五十余町野平村まで百二十余町橋本邊の逆道なり

此道當山良方の入口やして黒河村より来る也野平村  
より来る也杉撞峠とて二路合して千手院谷ふ入る

相浦口南谷ふあり相浦  
村と四十余町

此道當山南方の入口やして相浦郷より登指に

○雑事登

早蕨の春より茸狩の秋うけり四季ともくの候物ハ山童の来り

いざと待とうて是と買うていざと山よふ一區の畝田もわ  
らぬれはいつの青物を自由なげんべ四方の麓れ村より  
四時の野菜をふらとてかくやると集めておのづかぬく芭蕉  
しきゆい小附の花の色香へるは劣るごとく暑寒をいづれ  
かの嶮峻山路を攀り大師の廟前ふりげ帰依の寺院ふ  
るを雑事登とふ此事懈る年ハ其家必凶年ありといひ  
ひやう又口の村ハ小雑事懸とふのを造らして春の若菜  
より種々の花なぐもとふる軒ふ鉤と垣ふ  
と置まひ供養を運ぶ馬男新と肩つ山賤かと早く見  
つひ重荷ふとへけよる年一日も後とてすべふ  
まれ一苞と荷ふ添がれば道の間々禍を受る年ありと  
ぞ是全く大師千載の威靈ふりり里人法徳不懐く年  
かくの如くかき寺の庫裏あて常ふ青物の山とあ

専賓客を饗食す小足もりこい僧侶も里人の方と容ひやを  
 其施物と珍賞一菜の葉は赤くあがびらうとも無下ふ  
 捨らふぬぬびりらん 寺僧かの野菜の骨れ全く捨らふとも何れも  
 一投りて一其の寺の道者よりて食とて僕らのやう今食物なりまふ  
 鹿菜の建よりあり契つしやといひまが我の四國とあつるも  
 精進なうく飯のたごる食をばとひて去らる

大門

慈尊院村

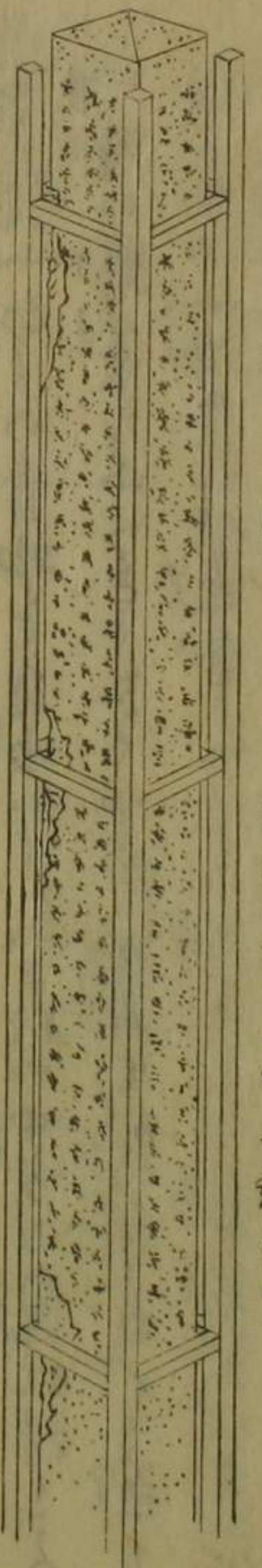
下乗標石

町率都婆供養碑

名倉村より當村まで川を隔て  
 五丁より丁石道とのわり

慈尊院村の北路傍にあり法務權僧正定海  
 記せり長者補任より保延二年の建立なり

同所より文字營減多し昔時加蓋の南門の  
 勸進なりしを町率都婆のより下ふ詳なり



下乗標石 大師の却書を模し  
 修し書をととむ

慈尊院

表門

却廟

大日如來

護摩堂

五輪二基

梨寺

三十番神堂

弘仁年中

山下堂塔

慈尊院村より方羊山と号し此壇と  
 慈氏寺とあり門前茶店あり

却廟 大師の母公將來三會の曉を期し爰に儼然とて葉を  
 拜堂 却廟の長く結縁利生し故に此寺と號縁寺とあり

大日如來 御名あり因て弥勒の壇と慈氏寺とあり明神の壇と神通寺とあり  
 二重塔 拜堂の西に本尊

護摩堂 堂の右あり鳥居のり寛保二年再建す  
 鐘樓 護摩堂の右あり

五輪二基 長安二年の建立銘あり  
 持經上人宝藏と建す  
 阿遮 堂の右あり

梨寺 大師堂の西あり中橋氏の元祖大師の孫子小代を  
 聖母侍衛なり代々

三十番神堂 阿彌陀堂 縁起  
 是廟前伽藍の供僧あり

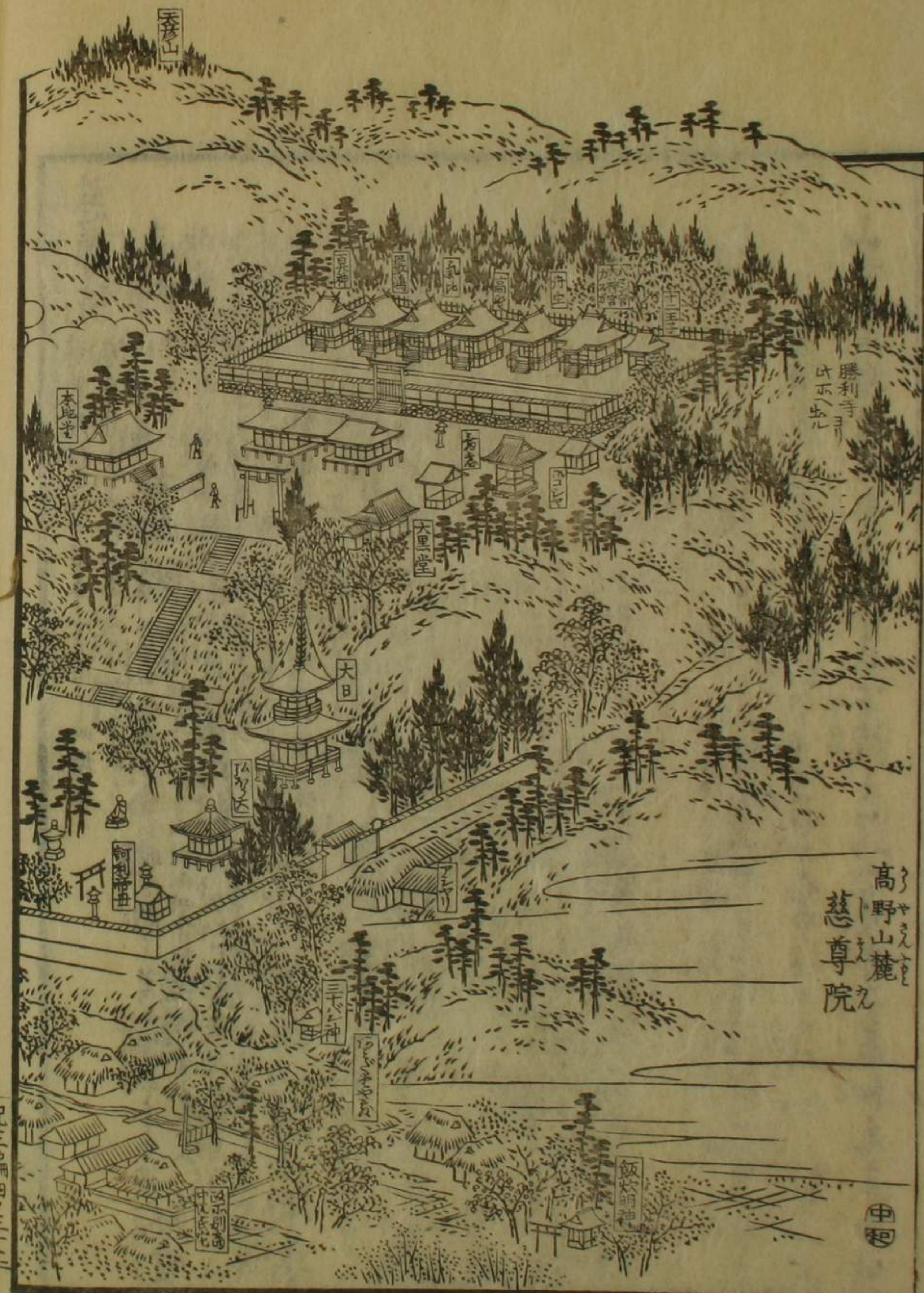
弘仁年中 大師南山を崩し此處と政所と号し陪從の者小余  
 一山の貢物雜事を出納の事と司らるる後大師御在世山上

山下堂塔 住坊負あり中下院とつる是なり  
 永和元年母公

一山の貢物雜事を出納の事と司らるる後大師御在世山上  
 山下堂塔住坊負あり中下院とつる是なり  
 永和元年母公



九谷山乃

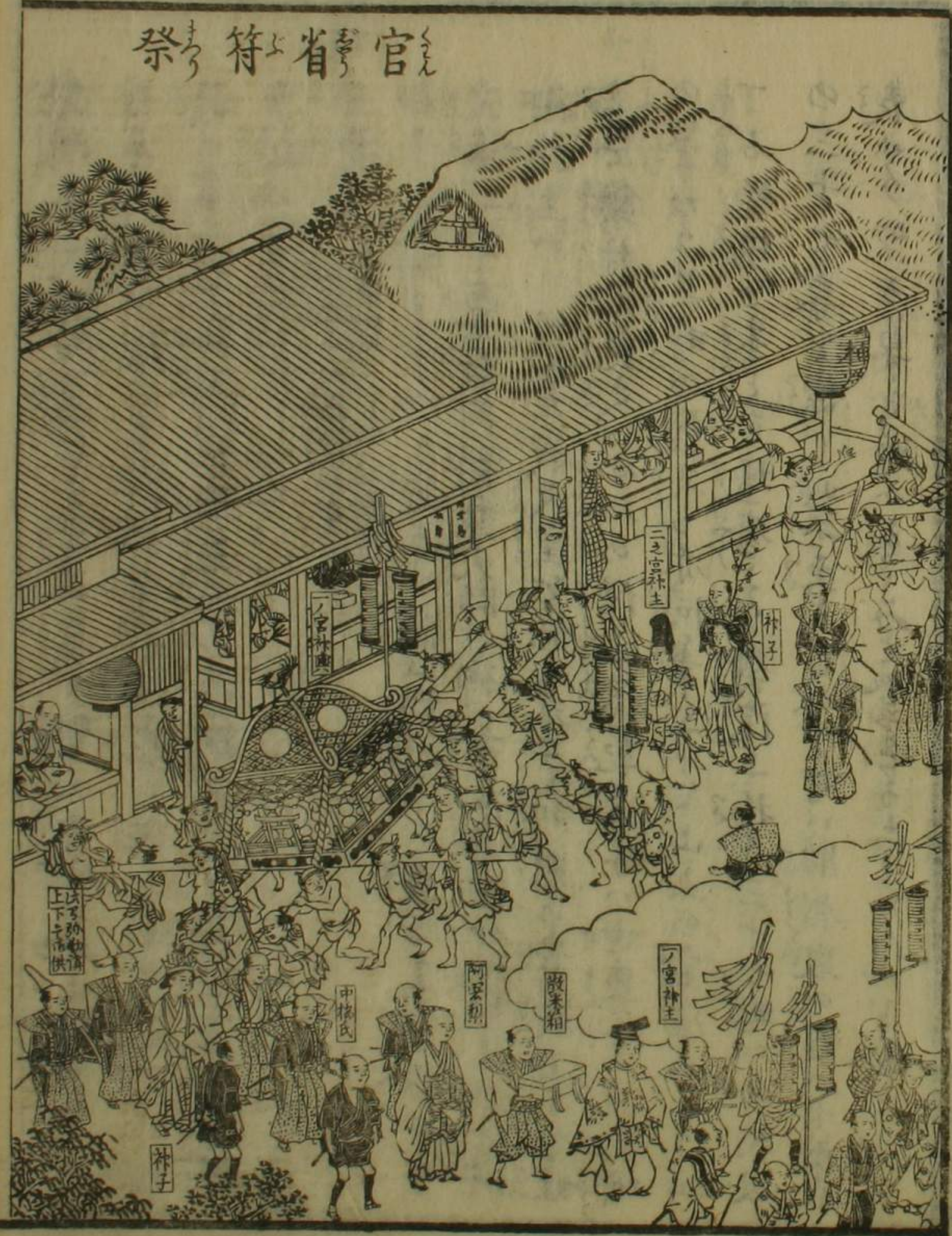


勝利寺

高野山麓  
慈尊院

中廻

官省符祭



七社之神々  
 省符ノ祭ニ  
 乃氏神ノ例祭  
 九月始ノ迄  
 大祭ナリ  
 是日未ハ

讚州より大師と慕ひくまふ來り暫く山棲の地より明年二月五日入寂し皆ひくが全身を廟窟ふ截し奉り甚深不思議の事多し母公ハ弥勒慈尊の垂跡とて聞日夫より慈尊院と通称せし

町率都婆二重塔の南傍ありて百八十町あり

ひうく大師木を以て造立し給う朽腐して數百年を経て文永二年覺敷阿闍梨大師の御告を蒙り石を以て改造し御施主の後差我天皇と始め奉り列國の貴賤を以て姓名を鑄付く梵文ハ小川の僧正信範漢字ハ世尊寺経朝卿の筆なり其時の願文も亦同筆なり山上の宝庫あり此丁石壇場を本とせ壇場より奥院ふ振る三十七町ハ金剛叟の三十七尊と標し此に至る百八十町ハ胎藏叟の百八十尊を表せりかち尊と道ふをみて登るるをわがわがバと

帝王既ふ當所の下乗は檄より玉の御樂と下りせ給ひ町ことも懇ふ御持念拜礼ありて玉歩とすめせ給ひしを

仁和二年法皇の御幸侍りし時寺の師ここを續千載のりて御幸侍りし時寺の師ここを

七社明神和名山崎院 神勸壇の上あり

本社冊生四所明神と伊勢八幡春日の末社本社の左右あり十二長床本社

舞臺長床本地堂舞臺鐘撞堂舞臺大黒天祠北あり御

供所大黒殿鳥居の上壇塔尾辨財天祠社地

○神寶 太刀 四振三振ハ永正十四年國次の給あり

当社ハ官省符付庄廿一箇村の惣氏神と称し九月晦日と冬十日と各村の氏子群參して神輿渡御の式あり是と官省符祭とて又神輿と昇りの數十人石壇を下り事空中と飛りて渡御の行列美くくくするもの驚歎せざるなり抑官省符

庄古ハ一圓金剛峯寺領カニ此政所小當社を建て庄の鎮

守トシトス

○中橋氏意尊院村先祖元忠ハ阿刀大足ガ三男ナリ弘仁七

年大師高野ニシキニテ一日隨從トシテ來リテ永和元年

母公此小來リテ給ヒ一時中橋母公小隨テ政所ノ別當小

任テ官省符ノ庄ニ支配シ此家主入三綱ノ中ニ上座ノ

職ヲ勤メ古記小上綱ノ稱性々見テ故今小傳ツ

上綱ト稱シ母公大師共小寂ノ後元忠剃髮トシ

常小上綱ト稱シ元慶二年九十三ニテ卒シテ後家系

連綿トシテ絶ズ毎三年三月壇上ノ正御影供ニ登山

シテ獻備ノ品ヲ点檢ス事ト家格ト守當家先祖何某

聖母ノ靈告アリテ往古ハ當家ヨリ精膳ヲ備ヘテ

故ナクズ

